WASON
PL
...
+

Oct.
1897
No. 452

明治三十年十月廿五日

女學雜誌

第四百五十二號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百五十二號目次

◎社　說
逆境の垂訓を聽くべし

◎評　論
役人根性

◎女　學
女子高等教育の是非
長子の教育　塚本はま子
各地女風俗報告集(第一)
余の調査せしもの　A・B・生
佛教徒の婦人會(一)

◎敎　育
教育者の所責所學いかむ
明眼大師の教育
京城學堂最近の報告◎其他數件

◎隨　感
無用の勞苦◎理は勢を待つて明けし◎無念無想◎古人と交らんとする時◎天父行ひ玉ふの跡◎琵琶行◎湖上詩人の嘆

◎雜　錄
幸田女史西樂談　青柳有美
月にむかひて　大塚楠緒子
天津つかひにならまほし　花影子
虫のかごと◎甘藷料理(二)

◎時　文
兒童研究◎女子書簡文◎女子の職業◎兒童教育論◎與謝蕪村◎新小說◎新著月刊

◎片々◎時報

社　告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や簡易實際を專にし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。
◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらば其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	廣告料	送金
壹冊　價金拾錢 半年　前金　金一圓拾錢 一年　前金　金貳圓 (內國無郵稅) 代金は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の捺印に御注意し上早速御送金有るべし	一行　一回(廿七字詰)　前金十錢 同　三回以上　一割引 同　六回以上　二割引	爲替は東京四谷區麴町十一丁目郵便受取所に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ふべし

明治廿七年二月十九日　內務省許可
明治三十年十月廿四日　印刷
明治三十年十月廿五日　發行

東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　巖本善治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保職
東京市麴町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話本局十九番)

女學雜誌出版書目

書名	著者	正價	郵稅
胼立比物語	櫻井成明譯	金二十八錢	金六錢
公娼可滅	巖本善治著	金三錢	金二錢
教育講義	同	金七錢	金二錢
婚姻論	橫山雅男著	金十二錢	金四錢
小說 善惡の岐	中島湘煙女史著	金十七錢	金四錢
廢娼演說	島田三郎、植木枝盛合著	金三錢	金二錢
藝者と手掛	炭谷小梅著	金二錢	金二錢
戲曲 桂吾郎	松山爲吉著	金十錢	金二錢
邦文學	阿波鳴門左衞門作	金十二錢	金四錢
吾黨の女子教育	巖本善治著	金十錢	金二錢
巖本嘉志子	若松賤子英文集	金六十錢	金六錢
俳諧史傳	布川靜淵、小此木秀野合著	金二十七錢	金四錢
百人一首講義	鈴木弘恭述	金二十八錢	金四錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百五拾貳號

明治三十年十月廿五日發兌

社説

逆境の垂訓を聴くべし

得意満心の塲合は、人事暫らく天に勝つの時なり。水を高きに登せ、流れを逆さまにするとも、當座は行はれつべし、少時の空しき虚象に誇りて、嚴なる天の則を徒らに左右し得べしと思はんには、規律の弓、直ちに筈より脱して、必らずや人腸を貫くの教訓あらん。浮萍の花の永春を期し、泡沫の珠玉万代の飾りとならんとするこそ、淺ましき所望なれ。志あらんものは、身を責めて斷じて斯の如き過あるまじきことなり。

興に乗じ、僥倖につれられて、分外の境に踏入り、遂に人の遺せしを拾ひて、吾物顔する人こそ、不憫なれ。斯て法外の榮燿に熟れ、分相應の愼しみを忘れ、天下つねに泰平にして日輪四時かゞやけるものと空頼めし、遂に天運至當の機會に巡り合はすに至つて、ハタと當惑し、俄然赤裸々の本分に身を落して、泣くも亦還らざるの後悔を爲さんの日、足下に近づくを知らず、嗚呼眞に危からずや。

顧ふに明治維新の改革は、大勢の致す所、人傑の應ずる所、固より偶然の運びによりて成就せしにはあらず。但だ悲しむらくは、當年の俊傑不幸にして早世し、維新の大業未だ半ばならずして、中樞既に失せたり、其後機輪の依然として回轉せしは、畢竟惰性に之れ由るのみ。未だ何等の經綸と成案との大に熟せしものありしにはあらず、只だ自然の成行によりて、自然に結果し來りしのみ、此を以て此の大勢の流に生を寓して、暫らく其餘波に沐浴せし輩儕は、もと是れ好運の寵兒、偶ま僥倖に愛せられて、分外の出世を爲しつるのみ。若し今の元老諸公を維新當年の俊傑に比すれば、諸公は、到底順境の人なり。畢竟先輩の餘徳によりて立身せられしものに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

過ぎず。

諸公、法を制せしと幾千百條と云ふヿを知らず、經綸を立てしと幾万遍と云ふヿを知らず、識見必ずしも凡ならざるにあらず、思慮必らずしも周密ならざるにあらず。去れど詮ずる所、南洲甲東長逝せしより。後、眞に國家の實益を擧げ得たるもの果して何事ぞ。或は、民權自由と云ひ、或は、憲法制定と云ひ、或は條約改正と云ふ、もし一々數年數月のかしましき輿論を標準として批判せば、或は多少の成功を了れりとや云はん。左れど長顧して邦家十年の實際地より觀取せよ。抑も空論と、法文との制案は、果して何程の眞功力を實地に收め得たりとか言ふ。

明治三十年、世運頓に一轉し、虚榮實なきの戰役、次第に惡結果を現はし來り、長夢正に覺めて、天道自から發露し、多年の迷想忽焉として散じ、今や渙然として氷釋せしものもあるべし。春畝相侯の將に歐米漫遊の途に上らんとするや、密に知友に告げて曰く、乞ふ之より眞誠の政事を研究し、將に一新せる經綸を得ん、希くば、舊來の痴見を棄んと。近頃亦た某所に演説して曰く、余は先輩の引立によりて今日ありと。

侯の如きは聰慧能く自から知る者、其覺醒することの尤も速かなるものと云ふべし。今や舊夢尚破れず、反つて此侯を推して依然たる舊演劇を奏せんとしつゝあるものすら、蓋し遠からずして亦た之と同樣の悔悟をや爲すらん。之れ大勢の推示する所に由るに外ならざれば也。

惟ふに、曩に順境に惑溺せし當年の寵兒は、今や則ち逆境に立てり。逆境の味は苦けれども、其の實は好し。かの曩日の寵兒初めて世運の辛きを知り、赤手の勞し易きを感じ、其の汗血を落す前日の比にあらずと雖も、天道の眞面目は、人の如此き誠實の外に窺ひ知るヿを得ず。彼等は、今や初めて、人生の實地に臨み、社會の眞相を觀じ得たり。天稟の英質之より大に煥發せん。邦家の慶事豈に玆に存せずや。

左れば、走馬燈は、他の半面を現じ來り、前日の書生一躍して高官に上り、忽ち得意滿悦するものあり。其の獵官の事情既に醜なるものあり、其在官の伎倆既に笑ふべきものあり其の好運の壽命すら既に斷えんとするものあり、然るに倘驕然として早く既に順境に醉はんとするは、何等の痴態ぞや。觀じ來れば、順境多くは人を殺し、逆境多くは人を活かす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

逆境は之れ眞の教師、力ある説法者なり、之によりて人生の眞面目を露はし、又之によりて天道の嚴正なるを證す。人之に接はりて初めて其本躰に自得するを得ん。

夫れ官を得たるもの官を失へるものは同に門外の人なり。乞ふ吾等が現に一同に感觸しつゝある、今の時世を見ん。看よ、今は即ち逆境の時世に非ずや。政費大に膨張し、商況大に衰へ、人心總べて萎靡し、事業悉とく擧らず、物價騰貴し民疾苦し、あらゆる有望の光耀大抵消んとせり、正に是れ一世大逆境に瀕するの時に非ずや。

一世これ逆境たり。乃ち大いに悲しむべくして、故に亦た大いに學ぶべきの時機か、多年の虚榮一時に剝げ、疎漫の事業頓に衰へ、分外の報酬俄に減じ、無益なる計畫自からにして亡ぶ。一世乃ち大淘汰を揮ひつゝある也。正に是れ天道人情を教訓する尤とも嚴正なるの時節にあらずや。吾等弱質素其の教訓を樂しむの勇なしとするも、豈に滿腔の氣を鼓して、其の垂示を甘受し、目前の痛苦と悲慘とに忍びて、以て嚴然たる天の説法に謹聽せざらんや。有志猛然として感激し、以て今の時世の教訓に謝すべし。

評論

役人氣質

今の時にして若し政治界に施す可き大改革ありとせば、官吏なるものに、對する一般世人の態度を變へんと即ち是なる耳。明治元年王政維新の變更は、果して實地に何等の革命をか奏せし、幕府實に勤王ならずして、薩閥政府果して勤王なりし乎、未だ明らかならず。幕府の時、帝權熾んならずして、薩閥政府に至りて初めて帝權起りたる乎、未だ明らかならず。抑も王政維新の實何處にかある。未だ維新の變更を聞かずして而て依然として只在る所のものは、官尊民卑の陋習これ也。官吏獨り帝の用を爲すと云ふ乎。帝は天也、博大公圓にして一切の民事に宰たり。其の攝理、其の惠顧、豈に只だ官邊公儀の役務を以てのみ了れりとせんや。左らば則はち、官吏たるもの獨り帝の御用を執行すと云ふの故をもて、獨尊せらるると能はざる也。

官吏は名譽職か。名譽職の語、抑も疑ふべし。月給に衣食し寵辱に驚き、上下に吉凶するの人士、何をもつてか名譽職なりと云ふ。官吏特に重んずべきの所以を知らざるときは、亦未だ其の名譽職たる所以を知ると能はず。

惟ふに、官吏を尊むは、維新前の舊習にして、今に於ては陋習たるを免れず。もし維新改革の大事業ありとせは、先づ此陋習を破るをもて、先とせざる可らず。

抑も官邊公儀の執務は、一個の俗事にして、西洋人の所云るビヂネスに外ならず。之に何の大方針と大經綸とあらんや。畢竟、國家諸器關の自然の發達に應じ、其の發現する所の結果に多少の調和鹽梅を與へんが爲に、元來止むを得ざる必要の事務を辨じて國民共通の利益を計るに外ならず。抑も之を何の自發の經營かあらんや。

然るに、其の執務の公明にして、人の注目を惹くと多く、權力を集散處置して、之が自由となるかの如く見ゆる外觀あるによりて、人多くは官吏をもて有力なるものと誤認し、其の施す所如何によりて、天下の治安に大關係を及ぼすとを得べしと信ず。畢竟これ假相を見て眞相として、僅かに代表する所の現象に迷ひて、其の根柢の勢力を思はざるの謬也。

官吏は素と是れ事務官に過ぎず。其の事務の本躰となりて、之を左右し、之を進退し、之を喜憂せしむるの根柢は別に國民の實力にありて存す。此の實力の徐に發展する所に順從して政を施すを上政とす。上政は乃はち自然なれば也。而して自然に從ふの上政は畢竟、結果を調理する一事務に過ぎざるなり。

左れど功名に急なるの官吏、多くは此の上政の素朴單調なるに滿足せず、强ひて自から事を起し、功業を不自然に作振せんとす。如此き政治は即ち事務にあらざるが如けれど、此の事務にあらざるの政治は久しからずして敗喪し、功業自からに消え、亦た治績を遺さず、營々たる其の經綸は遂に兒戯に類して止まん。

故に、官吏の俗吏たるとを知り、政事の事務なるとを知り、官邊公儀の眞は珍しきものにあらざるを知り、其の仕事は自から起すものにあらずして、事後の調理に過ぎざるを知り、これに大方針のあることなく、亦これに大經綸のあることなく、方針に經綸とは、只だ國民自然の發達に順從するの外

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なきを知了するを得ば、則ち初めて官吏の事同もに語るを得べし。

然るに慣れむべし、多少の人才、官吏本來の資格を辨ぜず舊來の陋習に惑溺して、徒に之を尊重し、自から官吏となりて、政弊の改革を爲さんなどと宣言す。識者の笑を買はざるを得んや。試みに看よ、遠古近世の別を問はず、官吏となりたるが爲に能く政弊を改革し得たりと云ふもの丶何處にかある。改革の事は即はち別事なり。何すれば、自から官吏となりて、所云る役人根性の境涯に身を沒せざるを得ずとは言はん。

此故に、人才新に官吏となり、もしくは成らんとする人才に告ぐ。諸君決して之によりて改革の實を擧げ得べしなど丶告白すると莫れ。斯の如きは是れ事務進行の靜和を破るに於て了らん。國家の爲に益なき也。

抑も國家の實力を進め、國民の安寧を增さんには、別に質實有力なる機關と生命との徐々たる進歩を要す。蓋し、十年一貫の勉强をもて漸くにして發展せしむべき也、何んぞ急に之を役人にもとめんや。改革の途自から他にあり、國家開發の方亦自から他にあり、安んぞ必らず官吏たるとにあらんや。

夫れ官吏たるとの途に大に成すあるに足らざるは、新に官吏たりしもの丶遠からずして實證を見めす所也。然れども先づ徒に空望を立つるは、自他同に不可也、人心他日の萎靡亦之より起る、今にして預め其の結果を知らんとの優れるには及かざる也。

女學

女子高等敎育の是非

女子高等敎育の是非を論ずるもの漸やく增す、これ一慶事なり。凡そ新らしき事業に對して議論あるは無きに優る、其の議論あるは人の之に注意するとを證すれば也。

然し乍ら、今の女子高等敎育是非の論の如きは、痴論たらざれば空論たるのみ。少しく論究せば直ちに黑白を判ずるとを得べし。

抑そも高等敎育の是非を言ふもの、初めより絕對に高等の敎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

育を非なりとするの意乎。左らば、女性には斷じて高等の敎育を施こす可らずと言ふの意也。則ち問はん、其の人は今の所云る高等女學校をすら不可なりとする乎と。

蓋し彼の人は此に對して下の如く答ふべし。曰く、今の高等女學校は高等の敎育を施こす所にあらずと。然れど、高等を名とせる女學校が高等敎育を施こすにあらずと言ふは、何によりて知ることを得たる乎。抑も、其の高等なる名目は空名か、將た僞稱乎。他なし、かつては高等と思ひて附與せし名目も、今は殆んど意味なきの文字となれりしが爲に由るにあらずや。

既に高等女學校の名を聞けども、必らずしも之に反對せざるは、其爭ふ所、名にあらずして、實にあれば也。左らば則ち、女子の高等敎育を是非せんと欲するものも、亦先づ其の程度如何んと問はざる可らず。其の程度の如何を論題として是非するは、惣べての敎育家が男子敎育にも女子敎育にも常に施こす所の研究なり。これ豈に珍らしき問題ならんや。たとひ歐米の女子大學に於てするも、程度の適不適を論ずるは其の年々の敎員會議に於て絶えざる所也、將來も亦永久絶えざるべし、之れ豈に異樣の事ならんや。

左らば玆に若干年度の學年、幾何種類の學科と云ふを擧げて之を今日日本女學生に適へりや否やと論ずるあらば、彌や實際問題に近づけりと言はん。たゞ漠然として高等敎育の可否を言ふが如きは、眞に意味なきの議論なり。

或ひは言はん。其の程度の淺深は暫らく論ぜず、大凡そ女子には惣して高等の敎育を不可とする也と。然し乍ら、高等低等の差は素と比較の語なり、出來うべき限りの最上の程度に高等の名を附して高等敎育と言はん時、之をすらも尙ほ不可なりと言はゞ、則ち之れ人間の敎育の高等なるを非とするものにして、恰かも人の高等となるを惡むに等し。豈に愚ならずや。

又或ひは言はん、所云る高等敎育なるものゝ程度を指定せざるに非ず、即ち、今の高等女學校（即ち今の普通敎育）卒業后二三年の專門敎育を施すを言ふ也と。果して然りとせば、斯の如き程度の女子敎育を是非するは寧ろ既に晩し。何んとなれば、かゝる程度の女子敎育は既に十數年前より我國に實施せられつゝあれば也。女子高等師範學校もこれ也。數多の米國風女學校及び一二の高等なる私立女學校もこれ也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

華族女學校もこれ也。かの所云る高等女學校の卒業生が更に補修しつゝある所のものも稍や之に類す。何んぞ今ま更めて其是非を疑問するを要せんや。

夫れ、外國にも女子高等教育の是非を論ずるものあり。然れども其の一半は大抵空論にして、他の一半は既に行はれつゝある高等教育の程度に對する評論なるのみ。今の我國の論者は、半ばは外國に行はれたる空論の響に驚ろかされて、暫らく彼國に流行する反對論を飜譯し若くは繰返すに過ぎず。半ば、今の女學界の事情に疎遠にして只だ徒に論爭するに過ぎず。故に吾人は之を稱して、空論にあらざれば則ち痴論なりと言はん。

長子の教育

塚本はま

事皆其始を愼まずして、其終の全きはなく、其本立たずして其末倒れざるは少しとか、家庭教育の道も亦この理に外ならぬにや、其最もあやまり易くして、しかも其結果はひいて全躰の失敗を呼ぶに至るものは長子の教育にぞある。

家庭をつくれる人がまづ何よりも先きに、待ち望むものは、富貴にも名譽にもあらずして、其子寶を得ん事ならん、かくてこの子寶はかゝる歡迎のうちに生れいでゝ、頑なる舅姑にも、愛せられ、冷淡なる家長にも、もてはやされ、見なき親戚朋友には羨まれて、その身のほどには過分なる手あての内に成長し、未だ一言半句をも吐かず一顰一笑の表出をだにせざるうち既に夫婦の愛情を增さしめ、嫁姑の爭を止とむるの魔力を有ち、しかも邪念なく虛飾なく、力を恃まず、智惠に誇らず、見ぬ世の聖人は知らず、人の世にはかくまで尊く愛でたきはあらじと見ゆ。されば初めて、斯る賜物を得し若き兩親の悅びはたとへんにものなかるべく、其身をも忘れて寵愛する事まことに理りなりといふべし。

されば心ある限りの人は、其教養に於て、ゆめ忽にせんやうはあらねど「子をおもふ道に」と古人も歎きけんごと闇ならぬ親心もまどはさるゝものなれば、愛情の極終にかの舐犢の愛に陷り、長子なれば、かほどの自由はゆるすべし、かゝる保護をも與ふべしと、よきほどに理屈をつけ、我儘をさへ當前

と心得るに至り、自然、敎育を過り訓誡を怠り、家内を擧げて其子の奴隷とし、遂には大切たる愛子をして、驕慢不遜復救ふべからざる我儘者となし終るに至らん。よし其驕慢不遜が其長子にのみ止まらば猶佳なり、もし弟妹の生れ出づるに及びて、一擧一動いたづら盛りなる其長子を見ならひ、事々物々、これを擬似ぶに至りなば、悔ゆともまた及ばじ。兒童は實に兩親の鏡にして、其言行を摸倣しこれを反射して其兩親に見すれども、大人なる兩親の言行を擬似るよりは猶多く、こどもなる長子（兄姉）の言行を覺ゆるものなり。かの姉のみをもてる男兒は活潑の風乏しく、兄のみある女兒はおてん婆になり易きも其一例ならん。されは家庭敎育に於ては最珍しく、最あやまり易き最初の一人の時、私情を去りて愼重なる注意と周到なる工夫とを凝らし、これが敎育をして、完全に近からしめ、子どもに子どもらしき美風をしこみおかば、二子三子に至りては左ほど苦勞せずして比較的によき結果を收め得べし、これ即ち、初を愼みて終を全くするの良法ならん、玆に此文を草して、爾後諸姉とともに長子の敎育に努めんとす。

各地 女風俗報告集

（第一）

本社今回婦人社會學研究の爲め、各地女風俗の調査を企てゝ、大方諸氏の報告を求むるや、其詳細は之を前々號紙上に揭げたるが爰に社友某は此調査を贊し自ら嘗て數年前に、各地の民情風俗を取調べたる多くの諸報告中より、一府十四縣の事、女風に關して、やゝ異とすべきものを抜錄して寄せたり。よりて以下に載す。

余が調査せしもの　A・B・生

◎群馬縣

◎結婚　上州人は女子を生むを賀すると男子を生むに優る。その遠因は養蠶、製糸、機織等の民業隆盛にして、女子の需用多きにあり。女の嫁するときには多額の金を受く。里諺に曰く、『上州の名物カヽア天下にから雷』と。

◎同　吾妻郡嬬戀村地方

◎男女交際　毎夜青年婦女等が夜遊に出づるの習慣ありて、彼の小屋に潜かに男女の聲あるあれば、此處にもまた然るあり。又青年輩の多く打寄りて芝居をなすの風ありて、小學生

徒登校の節にも「聲が高い初菊殿」となるものさへあり、また大酒を飲む。

◎結婚　婚儀には新夫は新婦の爲めに着服足袋下駄の類までも贈る。

◎茨城縣　水戸市

◎結婚　婚儀の式は近年至極簡單となれり。

◎千葉縣　長柄郡地方

◎結婚　甲者、乙者の娘を貰受けんとする時は、媒介人及び親戚一同と共に、樽、叺、鰹節、鯣、干鰯、扇子の七品を進物として乙者の家に至り、媒介人の手を經て之を進め、三盃の祝酒了れば、乙者の主人は、自分の媒介人に酒盃を獻ずるを以て、其子を托するの式とす。それより双方の媒介人と本人及び其兄或は近親の者附添ひて、同じく七品の進物を携帶して甲方に到り、乙方に於て爲せしが如く祝盃の式を終ふ。

◎山形縣

◎男女交際　上等社會はやゝ正しけれども、中下の社會に至りては、男女の風習大に亂れ、至つて卑猥なり。大概の家にて男女の淫行は、老少を問はず之れあらざるはなし。

◎同　最上郡新庄地方

◎男女交際　一月の歌骨牌會及七月の盆踊は男女交際の機會なり。七月には婦女間の七夕講あり、男子間には天神講あり。女子間にはまた觀音講あり。此等の會合多くは淫風を惹くの虞あり。

◎結婚　婚禮の儀式簡單となりたる結果として、出入離合甚だ容易となれり。

◎岩手縣　福岡地方

◎結婚　新婦の輿入に遇ふときは、水を散しかけて祝意を表す。又式場にて嫁、聟兩家の主人餅を舂く、之をいとこ餅といふ。新夫新婦は結婚後三年間は、舊二月十一月の兩度、必ず實家に歸りて、一ヶ月以上も滯在するとあり、之を名づけて洗濯といふ。

◎秋田縣

◎結婚　此地方には早婚の弊風あり。

◎異習　婦人徒歩外出するときは、一方の裾を帶の後部に挾むを常とす。

◎青森縣　中津輕郡相馬村地方

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎結婚　婚儀終るも新夫は、翌年正月までは新婦の親里に出入をせず。

◎同　西津輕郡赤石村地方

◎男女交際　男女成年に達すれば、自由に相通ず。又配偶を有する男女間と雖も、往々驚くべきの事あり。然れども父母乃至他人も敢て之を怪しまず。

◎新潟縣

◎男女交際　亭主以上のものは庚申講三夜講大々講などを結びて時々打寄り飲食を爲す。各町村に若連中ありて、十五才以上廿五才以下の男子より成る。之より他町村と葛藤を生じ、己の町村の女子を束縛する等の悪習ありしが、其風近年漸く改まれり。また洗ひ事一名カクセッといふ事ありて、若年の男女米味噌類を持ち寄り徹夜の會合をなして、悪弊其間に生ず。

◎京都府

◎男女交際　男女の間は市中はやゝ嚴正なれども、田舎に入るに從つて混亂し、尤も甚しきに至りては、男子十七八才に達すれば、之を別室に置きて、甚情婦の出入に便するの風あり。又女子十五六歳に達するときは、之をして自由に愛郎を擇ばしむるの習あり。また盆踊、夜祭等には、淫風公然に行はるゝの地方ありといふ。

◎婚姻　婚姻は夜に於て之をなす、但し午後九時を過ぎて之を行ひ始むるを以て不吉となす。

◎同　丹波地方

◎男女交際　上流にありては、男女の懸隔甚だしけれども、中等社會は宜しきを得たるが如し。下等社會に至りては、云ふに忍びざるの弊風ありて、猥褻の事を行つて耻ぢず。其妙齢の女子は非常の勢力を有して我意至らざるなく、爲に一家の紛亂を來す。また神佛の祭禮によりて、猥褻の事行はる。盆踊は男女淫行の媒介となれり。

◎廣島縣

◎結婚　中等社會以上は嚴重なれども、下等社會に至りては、簡單なり。また其子或一人の女を欲するも父母之を肯ぜざれば强ひて求めず、敢て親意に悖るものは擯斥せらる。女はまた如何なる男子なりとも、父母の命ずるがまゝに嫁す。

◎高知縣　高岡郡地方

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎結婚　婚姻は夜を以てす。婿入の節、新郎、新婦の親里に至る時は、近隣の兒女等杓を以て水を打ち散らす。嫁入の時には、貰方の若者等、夫家の門前に大篝火を焚く。

◎徳島縣

◎男女交際　舊曆七月十四日より三日間盆踊をなすに、女は三味、鼓、笛にて囃し、男は踊りて往來を進行す。此風今漸く衰へたれども、猶下等人民は警察官の許可を得て行ふ。

◎福岡縣

◎結婚　中等以下の社會にては「盜む」といふ一の結婚習慣あり。即ち男女何か一方（殊に女子の親方）に於て、通常の手續にては談合の整はざる場合に、なほ且つ結婚せんとする時は、男子の友人は、彼女子の外出を窺つて強て之を奪ひ、車力に乘せて男の家に運びて、無理遣りに婚儀を遂げ、而して後女の親里に通知して、止むを得ず承諾せしむるなり。

◎熊本縣

◎女風　女子はよく勞働して、休日若くは夏日の夜等には、多數群をなして横行す。概するに男女の別正しからずして、女子にして放歌狂奔するもの多し。祭禮の時は平生一面識なきものも、振り込んで宴に列することあり。市町の女子にして三味を彈き得ざるもの殆ど之なし。

◎沖繩縣

◎女風　上等社會の婦女は晴雨に拘らず、晝夜共に傘を以て其面を蔽ひ、葬式等には白麻なるものを頭部より全身に被り尙外出中他人の目を避く。來訪者と雖も、親族故舊の外には、婦女の之に面することなし。一般に上等社會にては、男女の權力遙に隔あり、動すれば男子の婦女を見ること奴隷の如く然り。甚しきは妻の面前にて公然、藝娼妓を家に招きて酒席に侍せしむ。是等男尊女卑の懸隔は、中下の社會に到るに從ひ、次第に減少す。又男女の交際は漸く一般に隔壁を脫し、隨つて淫風其間に生ずるに至れり。

◎結婚　意氣相投じて兩親の許可を得て婚するもの下等社會には頗る多し、中等以上に至らば、總て許嫁の緣にして、多くは生誕時若しくは五六歲に至り、兩親約を定めて、男女十六歲に至れば婚姻を行ふ。婚式には婿は、禮服を着けて伴一名附添ひ、婦家に至る、此際婦家より杵馬とて杵を以て馬に擬したるものを備へ、婿を之に乘せ、笠を戴かしめ、鐘鼓を

鳴らして之を家に迎ふ、其狀笑ふべく、人々相集りて之を笑ふ。蓋し恥辱を與へて、再娶を戒むるの意ならん。また此地方にては婚儀結了後、新夫新婦を携へて、娼家に遊びて、妻の嫉妬を戒むるといふ。

◎佛教徒の婦人會（一）

基督教傳來するや、女權の擴張を唱導して、女學校あり、婦人會あり。其婦人會の最も包括的なるもの之を婦人矯風會となす。諸方の教會內には、必ずや一の婦人會なるものあり、然れども、概するに基督教徒の婦人會なるもの、之を佛教徒の婦人會に比すれば、精神の上はいざ知らず、形骸に於ては、やゝ劣るもののあるが如し。

佛教徒の婦人會は全國內到る處に在り。近來また新に起るものもあり。而して概するに其婦人會の多くは眞宗門派に屬す。こは由來眞宗には尼衆なるものなければ、婦人傳道の爲めに特に婦人會を起すの必要あるなり。今左に諸種の佛教婦人會につきて、其景況の一斑を傳へん。

◎夫人正法會　東京小石川關口駒井町

律宗の達德者、釋雲照大律師を戒師と賴める夫人正法會は、所在佛教婦人會中の最有力且最大なるものを以て稱すべく、其目的は勝鬘夫人の勝蹤を慕ひ、四恩十善に依り婦人の德義を進めんが爲にありて、毎月雲照律師並に隆應阿闍梨、元峰律師等の講義法話を聽聞し、且つ法の母といふ雜誌を發刊せり。會員は貴族上流の婦人に多く、其發起人は毛利公爵夫人、蜂須賀侯爵夫人、井上伯爵夫人、大隈伯爵夫人、山田伯爵夫人、以下十名の貴族の奥方なり。同會また慈善事業の爲めに力を用ゆ、彼の三陸海嘯地方救濟、印度飢饉救助等の爲めにも、多額の寄附金を醵集したり。

◎八王子婦人智德會　東京府下八王子元橫山町西本願寺說教所內

同會は本年四月十七日其發會式を擧げて、男爵楫取夫人を會長となし、文學士廣田一乘氏を講師となし、木多周山氏之を監督して、會員三百餘名に達す。

◎長門萩夫人會　山口縣萩市

同會は毛利公爵夫人を會頭として、二三の支會をも有し、一二年前の創設にかゝる。現今いよ〳〵盛大に赴けりとぞ。

◎佛教夫人會　尾張丹羽郡大山町禪雲寺內

本年五月三日前記地方の同盟佛教會の附屬として創設せらるゝものを佛教夫人會となす。

◎明石佛教婦人會　兵庫縣明石町

同會は本年四月明石地方の眞宗派なる四箇寺の坊守婦人によりて發起創立せられたるものにして、目下會員百五十餘名あり。毎月一二回の法話を開き、慈善事業

◎三河婦人會　三河岡崎町字傳馬本願寺說教所內

を心懸け、質素儉約を守る等を以て會規となす。

◎三河婦人會　三河岡崎町字傳馬本願寺說教所內

同會は元岡崎町の二名の有志男子によりて發起せられ目下會員千三百餘名を有す。大洲鐵然島地默雷兩氏も贊助員の中に在りといふ。

◎佛教婦女會　播磨揖保郡市林

同會の目的は眞宗信者の本旨を全うし、慈善の事業を本とするに在りといふ。

◎佛教婦人智恩會　神戶市

同會員は專ら其心懸とする處各自儉約を守りて。一日一厘宛を貯へて、急時の要に供するに在りと。

◎越後三條婦人會　越後三條大谷派別院內

同會は明治二十八年中竊田某氏其他二三の有志男子の發起になる。當時は長岡、新潟、中の島の各地に支部を有し、目下本部のみにても正會員二百二十名、特別會員八十名、准會員一千餘名に達したりといふ。また本年七月東京婦人會と聯合の約を結び、正會員に配布する婦人雜誌の數每日二百二十部以上の購讀者ありといふ。八月中には南條博士等も、此會に臨んで講話をなしたりといふ。

◎京都佛教婦人會　京都市

同會は京都淨土宗有志者の發起にて、本年七月來會員を募集して、一般貴婦人之を贊助し、善光寺尼宮久我公を會長に推戴し、既に毎月一回の法話をなし來りたるが今月十七日其發會式を智恩院集會堂に開き、山田男爵夫人以下の參會ありたりといふ。

教　育

教育者の所レ責所レ學いかむ

教育の効力は左程にも無き如く見ゆれども、仔細に人の一生の傾向を吟味すれば、年少の時に受けたる教化の影響は驚くべき勢力なり。五躰八膚の血管に浸入して、人の全身に融化し、時に臨み機に觸れて其の色を現はす。身を終ふる迄で、當初の染まりを脫すると能はざる也。人間生れて此の聖なる職分に任じ、人の愛子を擔當して其の一生を指揮せんとす。責の重大なるとを惟んみれば、悚然として戰慄せざるを得ず、事業の樂しきとを推量れば、煥乎として其の榮光に謝せざるを得ず。ひとり奇しむ、何もの丶輕薄ぞ、遂に能く此の事業の洪大なるに安んぜずして、狂奔して他の俗界に移らんとはなす。嗚呼何んぞ陋なるや。

左るにても、教育者たらん人の責任の斯く迄に重大なりと知らば、自から責め自から學びて而して能く此の任に堪ふるの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人物たらんとするとは、夢にだにも其の念頭より離るゝとあるまじき鍛錬ならん。人世もと活機にして、人は一日も滞ふるとの出來まじきものゆゑ、もしも其の人品にして進むとなくば退ぞかざるを得ず。なみ大抵の工夫と修練とにては、十中八九、人の進歩は半途にして止むもの也。四十路の坂を越えて分別の境に入りたると間もなく、元氣頓に消沈し、精神次第に萎靡し、新智識の門戸固く閉されて、知らざる間に黒頭の衰耗老人たらん。亦た悲しからずや。

教育者たらん人は、一面に高潔の理想ありて、他に、實際の識見を存し、人をして天に通ぜしむるの先覺たると同もに、更に亦た、實際世間に敏ならしむる案内者とならざる可らず。單に世に明るきのみにては、技藝の教師なり。空しく道學を語りて生氣なきは、文字の先生なり。双ながら採るに取らず。若し吾が愛育する書生が實際の憂き世に彷徨し幾多の辛酸を嘗むるとかと思惟し來らば、之に倍するの苦心をもて之に先んずるの研究を遂げ、預じめ確實なる方針を示して、其の行路の難を少くせんとこそ思ふべき筈なれ。夫子安閑として人生を知らず、徒に文字章句を讀授し、其の落すべき汗血の苦しみに些との同情なくして、つねに天下泰平の顔付を爲んは、父母に代るべき教育者たる人の赤誠ならんや。

左りとても亦た技藝と手腕との教授をもて千百の書生に一々適宜の學を受けしめんと思ひも寄らず。要は、其の大躰を示して、其の大道を明らかにするにあり。而して、惣ての事業の根柢は人の品格に掛り。人物次第にて物の成敗は決するものと覺悟せしめ、一生の浮沈、終身の喜樂は、實地の品徳に由て定まると確認せしむべき勢力は、實に教育者たる人の感化の強弱にあり。

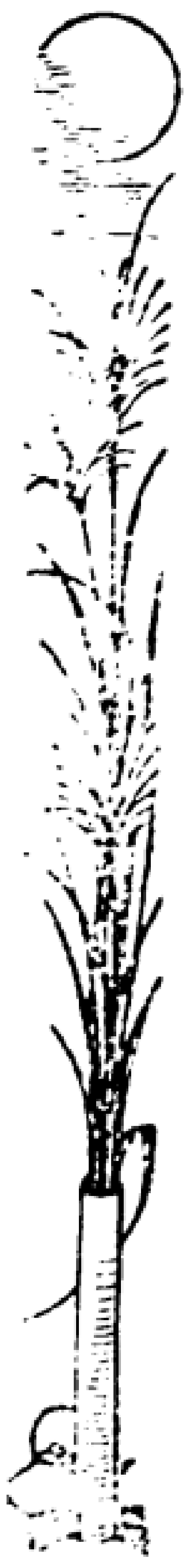
夫れ、此の感化力は泉源なくして發せんや。滔々たる水の幽遠なる所より湧き來るが如く、凡そ發して人心を刺激する程の感化の力は、密室に密に修め、屋漏に獨り愼しみ、人の知らざる所に苦心折骨し、無用無益と見ゆる程の長日月を費して、何人も決して見ざりし所に蓄積せし潜勢力の遂に露はれ出でたるに外ならず。

左れば、活世界の八方に靈明の眼を配りて、大勢大機の趣く所を看取し、超然利害の外に立ちて人生万様の眞消息に悟入し、別に古今第一等の人物と親和交通して、其の識見品操に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

融化し、以て高尚なる理想の模型を明白にせんとするとなどは、凡そ責任を知れる教育者の日夜に工夫鍛練して毫末も情容あるまじき所也。之を奈何ぞ、外國文書の研究に苦勞し、何々派の學統を論辨する底の教育學者と同日の比となすべけん。今の世に多き程の學問にて足れりとせば、書を讀むこと多く、事を知ると多ければ、則ち可なり。何の處か斯の如き平易尋常の學問なるものあらんや。丁稚小僧の奉公よりも尙ほ氣樂なりと云ふべし。嗚呼、苟くも、人の師表たらんとするもの丶自から責むる所、何をもつてか斯る易々たることにて可なりとすべけん。

近時世上に囂々たる教育論の如きは、所詮は何れに歸着しても頓着なき所ろ也。文部省を攻擊し、月給を比較し、獵官に忙はしく、俗吏に屈し、又は、文字、理論の末に拘泥して、未だ曾て自己心中の反省に着手せざる如き教育論は、眞誠の教育者に取りて毫も參考とするの價値なきもの也。



明眼禪師の教育

佛心宗又は明眼宗と云ふを唱や起せし玄旨軒禪師は、播州網千天德山龍門寺の大悟者なり。弟子の中、機に契ひしを大梁と云ひき。一日、味噌變じて惡しく、然れども捨つべきやうなし。大衆いづれも皆喫す。大梁曰く、

大衆も我もあしくなつた味噌を喫することは毫髮も苦しうないが、禪師は一會の主殊に平生病者なれば、若しあしき味噌が中れば、大事の義ぢやとあつて、典座に云ひ付けて新味噌をつかせて置て禪師一人計りに供す。一日禪師曰く、昨日までの味噌と今日の味噌は違ふて好いが、今までのわるい味噌が皆になつた故に今日より好い味噌を食ひ初るかと給仕の僧に問ふ。僧の曰く、いや左樣ではござりませぬ、衆みな今までのわるくなつた味噌をたべますれど、禪師は御病者にござれば、若しあたればいかゞとあつて、大梁のさしづによつて別に味噌をつき、師一人に進むと云ふ。そこで禪師そのまゝ大梁をよばしむ。梁和尙出づ、師の曰く、大梁そちが才覺で別に味噌をつき、身どもに好き味噌をそく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

はすと云ふが左樣か。梁曰くなるほど左樣と曰す。師曰くそんならばそちは今日より身ともに物をくふなと云ふことそうなほどに心得た。なるほどたべまいとあつて、そのまゝ起て居間に入り、内より掛金をばかけて開かず、ほつちりとも音なし。大梁衣にすがつてわびことをすれども是の如く室に入り玉ふ。それ故大梁は難義がつて戸の外に居て、色々とあやまりを悔ゆれとも、許しなく又ものいはず、その如くして七日過く、大梁も亦同しく戸外に在つて七日不食、上根に悔謝して退き去らず、されども師未だ許さず、一會の大衆驚動す。故に一同わびごとせんと欲して、灘屋信士に告ぐ、信士驚き來て、大衆と同しくわびごと白して云はく、禪師かくの如くなされて、七日物をあがらす、室に入りて出てたまはず、それ故に大梁も迷惑さに同樣に七日物をたべず、かれこれの命も危く、きづかひに存じます、禪師はどうござれ先づ大梁の笑止にござつて、僧俗ともに心安うござらぬほどに、是非とも御許なして賜はれと云ふ。是に於て師大梁の食はざることを聞き、その儘戸を開き出て曰く、身どもはその通りぢやが、大梁は物をくはいで、なるまい、とあつて、物を仰せられて、みなさう〳〵大悅してわびごと白す。師の曰く大梁よくお聞きやれ、人の鑑となる師家が、少しにても私意を胸にさしはさんではならぬわいの。その方は身どもをかばふて身どもを大切と思ふが、そちが身どもを大切に思ふてしたことは、身どもが仇ぢやわいの、何と今合點いたされたか。大梁曰くあやまり入りましたとなり。師の曰く從前の非を知りたらば、又再びなさるやうはないことぢやほどに、非を知りたら別の事をおしやらぬとなり。平生師の手段大概如是也。

●朝鮮京城學堂の近況

大日本海外教育會の設立にかゝる朝鮮京城學堂の最近況報告を得たり左に掲ぐ

○京城學堂報告

本校は明治廿九年四月十五日に於て四十五名の生徒を以て京城會洞に開校せしが本年一月には學籍生徒數百五十名出席平均六十九名を以て第一回報告を公けにせり本年四月十一日開校一週年の紀念大運動會以來大に來學者の數を增加し（場所は舊大闕にして來賓には我公使館員幷守備隊武官新聞記者韓廷外部學部大臣幷諸局の高等官諸校教員等にして朝鮮賓客のみにて無慮百名以上此他觀客三千人生徒の運動は弓術、競走、（數種）障碍物、旗奪、躰操、軍歌等にして其後松林中に宴を張り日韓交々演說あり）七月末には每日出席平均百十五名に上れり然るに校舍は僅々三十名を入るに足るべき二教場あるのみにして授業管理上甚だ困難を感ず故

に尙入學申込續々ありと雖とも年長輩は斷り年少有望の青年を撰拔し入學を許すこと丶なせり年長輩必しも志氣劣れるに非ずと雖ども校舍狹隘なるを以て不得止此に至るは誠に遺憾の次第なり殊に六七兩月間は彌狹隘を告げ遂に天幕を張りて教場の手狹を補ふとゝなせり七月末閉校式を行ふ當時公使館よりは日置書記官公使代理として小池外交官補と共に參觀せられ成績の頁好を賞せらる日置氏奬勵の演說をなし生徒も亦答辭を呈する事等ありしが此時も烈日の下屋外體操塲に整列して式を擧げざるを得ざりしなり將來校務を擴張し完美なる教育を施さんには必ず五六の教場を設くるに足るの校舍を求めざるべからず是れ現今京城學堂の趨勢なり此頃學堂教員石川三之助氏歸朝せるを以て學堂の槪況を左に錄して以て第二回の報告をなすことを得たり

○教　員

日本人　　五名

主任小島今朝次郎氏　副教員石川三之助氏　現守備隊の體操教官一等軍曹千葉氏

同上等兵旭氏　衞生科教員漢城病院長安田穰氏

朝鮮教員　　三名

劉漢容氏　李台煥氏　高衡淳氏

都合正教師八名

○現守備大隊長桑波田氏及漢城病院長安田氏之篤志

守備大隊長桑波田氏は凡て朝鮮に對する事は親切熱心なるが殊に我學堂の教育に同情を表せられ中尉境川氏を監督とし一等軍曹千葉氏上等兵旭氏を遣し親切なる訓練教示を與ふ是に依りて我學堂の體操は大に整頓せり亦漢城病院長安田穰氏も朝鮮を扶植するの情念親切なるを以て現に慈善病院を設けられ貧困者には施藥せらる人なり同氏も亦學堂教育には同情同感にして每週一回生徒に有益なる生理衞生醫事等を講話せらる我學堂が體操に衞生に斯良師を得たるは誠に感謝に堪へざる所なり

○生徒數

每日出席百十五名……………｛城內生八十名／城外生三十五名｝

城內生と城外生

城外各道の田舍より來りて勉學するものは盲語單純精神堅固性質素樸にして能く忍耐し熱心に勉學す將來たのもしき青年多しとす城內生は大抵身分よきもの多しと雖も城外生とは大いに趣を異にし槪して辭令に習ふと雖も或は柔弱の弊なしとせず然ども槪して之を云ふのみ其精神堅固に勉强雖に耐ふるもの鮮しとせざるなり

○寄宿生

皆城內生なれども居住遠きを以て五人學堂に寄宿す（自費）熱心に勉强し精神活潑なり中には雄辯家あり亦非常の慷慨家あり亦英語を能く話し代數學に上達し居る者あり通學生に比して氣力もあり學問も博く一種異彩を具ふる所あり是れ他なし師弟の交際親密にして直接の感化を受くるによるなり是れ寄宿舍の最も有效必要なる所以なり人は云ふ韓人を教育する易しと雖ども人物を造るは難しと眞に然り朝鮮教育者の困難は寄宿舍の無き點にあり若し我學堂にして數十名の寄宿生を許す丈けの校舍と資力あれば有爲の人物を造出する盡し難きに非ざるなり

○年　齡

生徒の年齡は十二歲以上四十五六歲迄

○級　數

級を分つて一番級、二番級、三番級、四番級、五番級、六番級の六級に分つ

○課　程

現今教授する課目左の如し

第一番級

日本語會話書取飜譯物理學作文筆算（分數應用問題より利息及比例に至る）珠算（百位の除法及乘法に達す）倫理體操

第二番級

日本語會話書取飜譯地理（朝鮮万國）筆算（四則應用問題より分數加減乘除）珠算（二位の乘法に達す）作文倫理體操

第三番級

日本語會話書取飜譯地理（朝鮮万國）筆算、（加減乘除より簡易なる四則應用問題

珠算二番と同し作文倫理躰操

第四番級

日本語會話國文書取漢文（千字文通鑑童蒙先習）讀本（學堂新編輯）筆算（加減乘除及極簡易なる四則）珠算（一位乘除）作文習字倫理躰操

第五番第六番級は四番級に殆んど同じきを以て畧す

此外各級とも百科講話あり筆算と珠算は隔日なり

○校舍

朝鮮風の家屋四棟より旋成す其內一棟は教師宅二棟は教場他は生徒の控處但一棟は日本の五坪の廣さなり

○運動場

二ヶ處なれども何れも狹隘にして五十人を併立せしむるに困難を感ずるなり

○讀方

現今各級新躰讀本を授く其內上級のものは七卷或は八卷を讀み日本語にて講義し或は朝鮮語に飜譯し之に付種々の雜話をなし亦能く暗誦必要の處は記臆して演說に應用す讀書は各級擧つて勉强する風あり

○會話

會話科の教授は一定の教科書に依らず時々の出來事及日用普通語を每日十五六宛會話に綴り之れを暗誦せしむるに生徒能く暗誦す之を日本人初めて英語を學ぶに比すれば甚易きを見る中には二百位の會話を敎へし儘能く暗誦し得るものあり一般に語學は他の學科より易くして面白く直に應用し興味を感ずる早きを以て能く勉强す故に其進步諸學科中最も早し

○數學

世人は云ふ朝鮮人には數學の頭腦なしと此言大に誤れり我學堂生徒の如きは僅々一年餘にして四則分數及比例の雜題を明に理解し能く之れが說明をなす若し完全に教育を施さば日本人とは大異なかるべきを信ず

○地理

地理は朝鮮國民の如き世間に迂なる者には最も必要の學科なれども乾燥無味の科なるを以て他の學科程は熱心ならず從ひて其成績も思はしからざれども其必要は非常に感じ居る樣なり

○書取

諺文書取と日本文書取の二種にして教科書。會話。新聞雜誌其他種々の書物より書取しむ割合に誤字脫字少なき方なり

○作文

日本記事文日用文論文には漢文諺字交り文詩等なり國民一般韻士の風あるを以て詩及記事躰のものは中々上手なれども日用文及實地ものは全く趣意を誤るもの多し是れ國民の世才に乏しく之れが應用の方法を不知によるなり

○習字

幼年生のみ時々紙を與へて淸書をなさしむ字は一般に上手なり之れ亦國民の誇る處なり

○飜譯

飜譯に二種あり一つは國文和譯和文國文譯なり然して飜譯は教科書及公文新聞雜誌其他種々の書類を譯さしむ一番二番の級は今日大概のものは差支なく譯すに至れり

○躰操

躰操は機械と兵式なり機械躰操は幼年生には危險なるを以て除き青年科に敎ふ技術は全躰に能く熟練し熱心に教官の指揮に從ふ規律能く整頓し大に嚴肅の威風あり必竟教官其人を得しと生徒の熱心によりてなり

○倫理

倫理科は此迄學びし事なきを以て生徒の最も困難する處なり每週一回問題を與へて各意見を書せしむ

○軍歌

我學堂の軍歌は居留民の深く賞賛する處なるが殊に幼年生歌ふ四百餘州の如き其音調日本人に勝るも劣ることなし時々日本人と誤らるゝこと多し

○斷髮の傾向

一時斷髮令の出でしより斷髮者多かりしが其後政變により遂に同令を取消したるを以て俄に流行も止まりしが今日に至りては自ら結髮の不便を感じ斷髮するの傾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

內あり我學堂の生徒も三分の一斷髮者なり尙散髮せんとする者間々あれども彼等今一時散髮するも洋服を買ふの資力なきを以て之を躊躇する者多し

○獎勵法

本學堂に入學せんと欲するものは身元確實なる保證人を入れ三年間の卒業期迄止むなき事情の外決して轉校若くは退校を許さゞるなり若し無斷にして一ヶ月欠席し或は他に轉校する者は堂則により罰金を一ヶ月一圓五十錢と定め月數に應じて證人より徵收し此罰金を以て運動費にあつ是れ單に欠席及轉校を矯正するのみにあらず大に校則校風の重んずべきとを知らしむるに善良なる獎勵法なり

○筆墨紙を給與す

朝鮮の學校は授業料を徵收せず筆墨紙の如きは元より生徒の洋服に至る迄補助し此上尙晝飯を給するの特典さへあり我學堂は筆墨紙丈けを與ふ

○土曜日

土曜日は敎授を九時として十時より上下級の區別なく日本語にて演說會を開く政談學術其他種々の演說あり語學研究の一助として最も有益なり亦時々百科講話を聞かしむ

○特　質

我學堂は他の京城に在る諸學校の如く殆んど語學のみ敎ふる處とは大に其趣きを異にす淺薄ながらも今日最も急務なる普通の學術を敎授し文明進步の精神を鼓吹し實力を養成して社會に應用し得べき人物を造る點にあること、校則の稍自由なると如何なる人と雖ども志あれば入學し得る等の點とにあり

○生徒と居留人との關係

我學生にして居留日本人士并に守備隊士に韓語を敎授する者往々あり學生も此交際の間に學校にて學び得られぬ通俗實用の日本語を習得するは自他兩得にして此間日韓人の情交自ら融和し來るの益は數塲句讀の益に比しては盡し微にして而して更に優れるものあらんも知る可らざるなり

○運動會費

前述紀念運動會は頗る盛大の觀を呈せるものにして隨て其費用も寡からざりしが一切內外人の寄附金を以て支辨するとを得たり日本居留官民より貳百餘圓朝鮮學部官吏より貳拾圓餘其他諸學校より若干圓を寄贈せらる

明治三十年八月

大日本海外敎育會

◎敎育閥

政界に藩閥あり、商界に商閥あり、敎育界に敎育閥なるものなり。日本人記者今の敎育社會は純然たる閥を以て成り、門牖を禁閉して他の來者を排絕すといひて敎育閥を非難す。論中いへるとあり、

然るに我國の所謂敎育家なる者を見るに、其名を冒す所因は官職を奉じて敎育に從事したりと謂ふに過ぎずして、官の厄介と爲らずして孜々敎育に從事する人は却て其中に列するを見ざるなり。福澤諭吉氏の如き、其の主義は兎も角、三十餘年來矻々として一定の敎育に從事せるは洵に他に類を見ざる所、而も今の敎育社會と何の關係かある。本多庸一氏は敎育家として重ずべき人、松村介石氏亦た一種効力ある敎育家、而も今の敎育社會と何の關係かある。現時職を中學に奉ずる者大抵祿の爲めに職を守るのみ、此校より彼校に移る蠻人の水草を逐ふが如し、終始一校に居りて力を敎育に竭す者稀にして、學校を創設し心を敎授の方に勞する者特に尠し、坪內雄藏氏は小說家として名あるも、又頗る中學の敎育に熱衷す、府下の敎育家中、力を此に盡すこと氏の若きは餘り多からざるべし、而して氏も亦敎育社會の人に非ざるなりと。

◎迷路彷徨

小學校敎員を判任待遇すべしとか、敎員に勳章を授與すべしとか、或は小學校敎員に官服を下附して、陸軍尉官相當ならしむべしとかいふ說此頃屢見ゆ。嗚呼如斯きが果して今日敎育界の大問題なるか。今の敎育論者いづれも無益の岐路に迷徨して、區々たるを樂しむ乎。彼等はみな敎育の大道の價値を忘れて、虛飾空榮に飽かんとを求むる乎。

◎二の敎育大會

十月上旬には神戶に帝國敎育大會あり、同下旬には東京に聯合敎育會開かれんと

す。此等大會の益するや、果して何そ、睦するにこれ一時の虚勢を張るに過ぎさらんのみ。會するもの、議するもの、多くは道の心髓を知らずして、形體を求めてたゞ爭へり、たゞ叫べり。素より爲すに足るの經綸あるなし。空論空言大聲叱呼して果して何の用ぞ。今の教育者等は須らく退いて道に歸るべし。たゞ躍起狂奔するは、いよ〳〵道を離れて　全く世に功なし。自ら爲さんとを欲するものに爲し得たるのためしなし。焉ぞ自ら大に任じて己を守らざるか、これ世に大功を立つるの策なり。要するに今の教育家なるものは、いふに足るものなし。而も今の自ら教育家と稱するもの、中に、我より教育家と稱すべきものあるを見ると能はざるに似たり。

◎海外教育界近況

◎シカゴ教育局　の昨年中に支出したる教育費は七百万弗に上れりといふ。

◎ミッソーリー州教育費　は州歳入三分の一を以て州内公立學校費に供したり。

◎華盛頓府米國大學　の建築費並に裝置費に要する歳五百万弗にして、創立資金の醵集せられし總高は一千万圓なりといふ。

◎羅國の教育　近き内に聖彼得堡にて教育特別委員會開かれて、羅國に强制教育法を執行するの可否を議する由。

◎米國教育大會　近頃米國ミルウオーキーに於て開會せられたる米國教育大會の爲めに、同市は九千弗を支出せり。

◎黑人學校の獨立論　米國バージニア州の諸新聞紙は、黑人をして、悉く其學校費を負擔せしむべし。白人より收める税金を以て之を支ふべきに非ずと主張せり現今の處黑人の學校費の爲めに、黑人の支出するもの、其教育費の百分の五乃至六に過ぎずといふ。

◎米國最年少法律家　此程アイオア法律學校を卒業して代言人となりたるホーマア、ミルサップといふ一少年あり。本人僅に十六歳此人を以て米國第一の年少法律家となす。

◎彼斯古代學研究の專權　此程佛國政府は、彼斯王の特認を得て、同國に於ける古代事物の研究の專權を佛國に收めたりといふ。

◎シカゴ圖書館　シカゴ府の大圖書館新築はいよ〳〵落成したり。同圖書館はよく二百万冊を容るゝに足り、現今の藏書一百七十七万千四百四冊なりとぞ。昨年の報告によれば年々四千冊乃至五千冊の書籍は破損し、歳入二十四万弗に上るとぞこの圖書館は世界第二に位するものにして、其第一は佛國巴里府の國立圖書館なり。其藏書高二百万冊に上る。

◎在米日本學生　現今百五名の日本人は、米國諸方の學校に在りて勉學せりとぞ。

◎印度カルカッタ大學　は世界最大の教育組織を以て稱すべし、其每年試驗する處の學生の數一万人以上に達す。

隨感

○無用の勞苦

至賊已むとを得ずして起つとは、本來の人事、成るべくは、事を起すとなかれと言ふの主旨なり。虚靈靜明にして、肅然として暴りに動くとなきときは、人世騷動の過半は大率ね波だたずして了るべきものを。憐れむべし、痴人故さらに無用の事業を起して、之が爲に無益の煩悶と勞苦とを來たす、畢竟、見識に類せずや。釋尊の大慈大悲をもてするも、一旦豁然として物の眞相に觀徹せし比や、初めて知る一切の成佛することをと喝して、人は自からに救はるべし、否な初めより救はれ居るてふとを大悟せり。救世主耶蘇基督の將に世より

去らんとし玉ふや、愛着戀々として離つに難き門弟子等に諭して曰く、之より別に慰藉者下りて汝等を助けん、汝等は吾よりも反つて大いなることを為すべしと。夫れ切々たる慈愛の情、人の靈魂を救はんとするの誠心より眞なるはなし、而るも倘ほ多少の放任すべく、幾分の掛念外に置くべきものあると斯の如し。然るを况んや他の淺薄なる人事今日の俗務に於てをや、其の大抵は棄て置きて可なるものを故さらに拾ひ、徒らに世話を焼きて之が為めに亂離を甚しくす、今日の所云ゆる幾多の急務なるものは、大率ね此の類にあらずや。

○理は勢を待ちて明けし

大勢の機轉は舞臺の巡換に似たり。理はもと勢に乗りて力あるものゆゑ、勢に後れたるの理は、たとひ明晰なりとも氣既に散消せり。箇々の現影、舞臺に上りて、當座の活劇を演するを見れば、眞に悲しむべく、又、眞に笑ふべし、乃はち其の勢ひに合すれば也。勢既に去つて理を論じ、理未だ用なきに切りに爭ふなど、惣じて無益の沙汰なり。又、勢を迎ふるときは極めて有望新進の躰あり、今の人の所云ゆる活火あるとき也。勢に遺さるゝときは、太はだ見すぼらし、今の人の亦た老耗せりと言ふ所なり。火あるも無きも素と外物の餘澤なるを、之に托して誇るも阿房らしけれど、之を見て褒貶するも亦馬鹿らし。芸々たる万物各其根に歸す、根は命なり、命は常也、常を知るを明となす。此の明なきの目は遂に盲人の見る所ろと何ぞ擇ばんや。

○無念無想

無念無想と云ふことを思ひ違ふる人の多くあり。元來、無は無にもあらず、有にもあらず、有無の外に超然たるをこそ言ふものなれば、無念無想とて、只管らに想念なからんとすることと心得るこそ、いよ〳〵想念を引をこすの種なるべけれ。水ぎはの花うつろへば、うつせし儘に水は流れて休まず。万露惣べて果敢なく消ゆれども、消ゆる迄で、万様の姿を映ず。想々念々の起り來り行き去るとき、只だ其まゝに去來出沒せしめて之に意識せず、而も之に意識せざらんとも意識せざるに至らんには、たとひ雜多千百の想念續々として現じ來るも亦た現ぜざるに等しからずや。此の澄然として清み、朗然と

して靜まりたる境涯を無念無想とは云ふ。正に是れ虚明大無の時歟。此を以て、念々は一念にして無念に似たり、想々は一想にして無想にひとしと言はん。

○古人と交らんとする時

或ひは書に對して沈吟し、もしくは墓畔に逍遙して念じ、もしくは亦孤燈明滅の下に想像し、或ひは亦た靜坐禪定して深く懷ひ起しなどして、すべて古への聖賢もしくは大救主のおん事などを心にこめ、所云ゆる尙友の消息に入りて、情致相ひ契合せしめんとするに及べば、俄然として身の及ばざる、德の逹せざるヿを感悟するヿあらん。只だ大業に上はべの穿鑿のみして、吾心事の研究の切ならざるより、常は、ひそかに任じて自から高しとするヿもあるべけれど、一と度び直ちに古賢先聖の前に出で、之と親炙して睦み談ぜんとするに及べば、忽ちにして其の假面の剝落するを覺えん。人試ろみに精細に吟味して熱實に古人を尙友するヿを力むべし、吾心の高雅甚しく不足するものあるヿを覺るを得ん。

○天父行ひ玉ふの跡

理は神意靈動の筋路なり。勢は神情感動の傾向なり。道は其躰。德は其の用。歴史は其の記錄。治亂興廢は其の賞罰なり吾等不肖と雖ども、由て以て天父の行なひ玉ふ所を察するヿを得ざるにはあらず、但だ察知するも尙ほ之に順從するヿをせざるのみ。此時に當りてナザレの耶蘇は堂々として告白し玉ふらく、誠に實に爾曹に告ぐ、神子は天父の行ふ事を見て行ふの外は何事をも行ふヿ能はざる也と。嗚呼、天父の行ひ玉ふ所の事の外は行ふ能はずと言ふ。『能はず』の一語、何等莊重謹嚴にして、自から任ずるの純厚なるヿや。

○琵琶行

白樂天、潯陽江頭に琵琶を聞き、慘として歌ひて曰ふ、同じく是れ天涯淪落の人、相逢つて何ぞ必らずしも曾て相識らん、我去年帝京を辭してより、謫居痛に臥す潯陽城、潯陽城地僻して音樂なし、終歳絲竹の聲を聞ずと云ふに至れば、詩恨長久にして、涙、万古に流る。われ琵琶行を歌ひて此の句に及ぶや、獨り自から禁ぜず、常に屢ば泣笑す。嗚呼、赤心の可憐にして人

を動かす何んぞ斯の如く切なる。東西楚々として一樣に感じ千古脈々として同じく通ず。人情の結びも亦た奇しき哉。

○湖上詩人のなげき

木の葉、風にもぎとられ、草も追々にかれてゆく今日このごろは、秋すら早や老いさらばふとは見えたり。只だ何となくさびしく、かなしく、獨り悄然として端ちかく居てながめくらすとの多かりける。口を開けばとて、思ひを悉くすべくもあらず、語らば僅かにぞゝめくのみ、そも如何んかして鬱結を解かん。逝く水は反らずや、散る雲は集まらずや、落ちたる花片は榮えずや。よしもなきとを思はじとする思ひの一層に苦しければ、思ふまゝに思はせて、端然として靜まるには及かず。生死もと免かれがたければ、免れんとするの理なきなり。ゆく人を元に復へりしとして、鮮やかなる紀念をあらん限りの生命とはせん。テルヅテルスかつてヘマン夫人の逝くを惜しみて歌ひけるやう、

"Mourn rather for that holy spirit,
Sweet as the spring, as ocean deep,
For her who, ere her summer faded,
Has sunk into a breathless sleep."

雑録

幸田女史西樂談

青柳有美

昔し、ベートーフエンが『月光曲』に、その詩情をうつしたも、こんな夜であツたことだろう。隅田川が前に流れて、鐘淵紡績會社の電燈は、その水面に影をうつし、所ならぬ不知火をもやして居る。近くには稲荷などであらうか、仲々に神さびたる社があツて、木立も可なりに打ち茂りて梟の悲しげなる叫びさへ、梢の間に傳へられて居る、これが橋塲なる幸田延子女史草盧のほとりだ。明月の高くかゝりて、ものすごきまでに照り渡るさま、何ともいふにいはれぬ。胸中に蟠つて居る悲想は、四面の人なきに乗じて、むら〱と衝き出て來る。あゝ……この身を溶してしまはうか。まさかに溶かすとも難い。たゞ願ふは、ミユーズの神にでも、インスパイアせられんことである。到りて戸を叩け

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ば、何人にてやあらん、鈴聲ゆかしく、讀經の聲さへす。

* * * * * *

●まア…サ　…おらくに。舊弊だもんですから、まだ、こんなに日本風に…椅子も何もないので。どうぞ御遠慮なく、おらくになすッて…

●あちらに參りましたのは…廿二年で。初めはアメリカに參りました。ハイ…ボストンに。一躰いくら進んで居ると申しても、音樂は、餘程歐洲より亞米利加の方が、おくれて居ます。それでも、矢張りボストン、コンサーブエートリーなんて、仲々盛んなもので。こゝの校長のトリエと申すのが、伊澤さんとは…逢つたでもないでしようが、知り合ひの間柄で、手紙の往復位はして居つたものと見へ…それにあの…今の音樂學校の創立に骨折つたメーソンといふのがこのトリエの弟子だもんですから、…そんな縁故で、そこに參りました。矢張ヴァイオリンとピヤノと和聲とを致しました、それから語學では…獨逸語も少し、一年半ばかりで、ヨーロッパに參りました。書生ですが…矢張り女が多いんです。

●二三十年前までは、維也納(Wien)が、音樂では、世界一だつたんですが、其後獨逸の方が非常に進歩したものですから…今では…音樂の中心がヴ井ーンからベリーンに移つたといふ程でもありませんが…昔よりは餘程衰へました。然し、織物といへば、西京と申す樣なもので、矢張りヴ井ーンは音樂の檜木舞臺で、今でも獨逸などに行つて…まさかベリーンでは、そんなこともありませんが…ヴ井ーンで歌つてきたと言へば、仲々はばがきゝます。兎に角、ベートーフエンもこゝに居りましたし、これまでもなく、その後もないといはれる、作曲大家のシユーベルトは、ブ井ーンで生れて、ヴ井ーンで死んだ人だし、…それからモッアヴトも居りましたし、それからこの四月に亡くなりましたブラムスなんかも居りました。そうして一躰ヴ井ーンといふ所は、音樂の市といッても善い位で、仲々一般に音樂趣味の高いところです。

●どこも同しことで、音樂の天才といふ樣なものは、矢張り、澤山は見當りません。然し大抵一人の先生が、一人位づつさういふ人を持て居る樣です。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●日本服で御座りますか……これも一利一害で……ヴァイオリンを彈くには、襟が厚いもんですから、大變に都合がよく、ことに、かういふ具合にあてますと、ヴァイオリンが動かないで、いゝですが、洋服だとさうは行きませんから、仲々苦しくッて、骨が折れます。それに男の樣な堅い襟でゝもあると、誠に困ります。然し曲が急しくでもあると、袖が、こんな風にバタ〳〵〳〵と、あッちに動いたり、こッちに動いたりしますから、見ッともありません。それにヴァイオリンを彈てたちますと、日本服では……歸朝だてと違ッて、近頃は餘程見慣れましたが……頭の方が勝つ樣な氣がして、不がッかうです。一躰立つた樣は、まア……こんな風に上が細くッて、下が太いので、釣合がよからうかと思ひまするんですが……。矢張り洋服がよい樣です。昔は腕をこうまげると、痛いやうな袖が……女には流行ッたものですが……洋服でも。それでは困りますが……私の居つた時分は、丁度袖の極ゆッくりしたのが、流行つたので、大變らくで都合がよろしうございました。ピヤノには、日本服でも、格別障りはありますまい。

●『ん』には、別にタイム時なんて與へられる音でありません。之に、ゆッくりタイムをやッて響かせますと、大變をかしなものになッてしまひます。『父子親あり、君臣義あり』といふ歌を御存じでしよう。あれでも『ん』を『う……うん』と可なりタイムを與へますんで、隨分をかしなもんです。はい……『薩摩潟』の『今や天下の正義の士』の『てん』は一つの音にしてあつても……なる程……變です。だが、あれは歌ひ方の悪いからなんです。それにアクセントと曲調が、うまくあッて居ないもんですから。然し歌ひ方では、『ん』を餘所の音に、くッつけても、少も耳障りにはなりません。エーと……何んですたッけ――(女史茲に至りて、獨逸語の唱歌を歌ひ出でらるゝこと、二三句)――こんなに『ん』を格別響かせないで、前の音と一所にしても、少も障りはありますまい。ヴィンテル……これは英語のウヰンターといふ字なんですが、『ん』が眞中に這入て居ます。これ、……それでもこの通り、障りがありますまい。ちッともをかしいことは御座いません。それですから、日本語でも歌ひ方さへよければ……でも矢張り『ん』は厄介なものです。

●ヴヰーンは、ベリーンからは極近いんで、まづ一日まるでかゝらんで行ける位です。

●聲樂と器樂と、どちらがお好きで……矢張り聲樂ですか……聲樂は解り易いもんですから……然しほんとの音樂の妙といふものは、器樂にあるんで、器械を用ゐてなほ聽く人を感動さする樣になれば、ほんとうにえらいんです。然し、器樂の妙てッとこを、うまくわかるまでには、仲々音樂の才といふものがいると申した人があります。

●新聞や雜誌にある音樂會の評などには、あまりなんとも痛痒を感じません。正直の所を申しまするど、隨分仲には、くだらん馬鹿なことを書いたのも見えます。どうして、あんなことがかけるもんですか。お知り合ひか、お友達の人かのうちに、あんなことをして居る方が、おありなさいますか。」

●よく新聞の評などに、誰それのは、今度はらくに彈けたなんど丶いふことがありますが、らくに彈けたといふことほど、私にわからんことはないんで……彈く時には、どうしても、一心をそれに込めなければ、よく彈けるものではありません。一心を込めたら、いくららくに彈けと言はれたからッて、らくに彈けるものではないので、餘り見苦るしい樣をしては、悪いでしようが、躰のちッと位動くのは、いゝんだろうと思ひます。いくららくだからッて、こんな風に、作りつけの人形か何かの樣に、ツッ〳〵と手を動かすのは、よいと思へません。出來るたけ一生懸命に熱心にやらなければならんと思ひます。

●音樂は矢張り、指の軟いうちに始めんといけません。うちの妹などは、少さい時分から、ヴァイオリンをかゝへて育つたもんですから、指が今では、ヴァイオリンを彈く樣に、ちやんと固ッてしまッて居ります。始めは先づよく聽せて置けばいゝので、むかふなぞでは、六つ位からもうヴァイオリンを持てやつてる兒があります。然し、ざッと十二位からでも、遲くはありません。年とッてから始めては、どうしても駄目です。私なぞは、晩學で十六の時から始めましたが、それまで……ヴァイオリンなんて、見たこともありませんでした。それに學校の始めでしたから、丸るでお草紙につかはれたやうなものでした。

●文學で言へば、テニソンとかトルストイとかいふ樣な……

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

近頃の人ですが……前にも一寸申しました、ブラムスが一番でしやう。この人は俗にベートーフエンの次だと申しますが、次といふべき人でないんで、ベートーフエンと同じ位えらいんです。外にピヤニストとかヴアイオリン彈者だとかいふもんなら隨分澤山ありましやう。それから、これも惜いことに昨年の十月亡くなつてしまいました……………

◉せんだツての學友會に出しましたソナタ……あれは稽古中に、あッちで作つたもので、極つまらんのです。……然し、どうかして、あんな具合に出來たんで……いつでも、作曲の稽古のときに、先生が何か作くツて來いと申しますので、持つていかなけれやなりませんが、いつか、あんなものが出來て、次の日、先生に見せましたら、よく出來てるツて、大變に褒めて……少し直してくれました。それですから……なんだか知りませんが……先生の褒めてくれたんですから、いゝと思つてるんです。……ついせんだつて出しました。然し今ではどうかと思つて、筆を入れたい所もないではありませんが、先生の訂正してくれたんだから、蛇足だらうと思つて、ほつておきますんです。

◉曲を作るツて……こう作つて見やうなんて……考へたからつて……仲々出來るもんぢや、御坐いませんでしやう。いつか、作曲の稽古で、作つて行かなければなりませんのですが、いくら考へてもどうしても、出來ませんから、先生に行つて、私は出來ませんと言ひましたら、貴女はどうして考へたと問はれました。机の前に鉛筆を持て、考へて居ましたと申したら、それだから出來ないんだ。外を歩てたり、ソフアに横になツて居たりする時に、出てくるものだと申されました。それあー……何となく……始めは、こんなにツーツと頭から出てくるんですな……勿論その上に……何度も〳〵改刪は加へにやなりませんが。その出て來たものを書けば、ひとりでに……なんですな……

◉大家になりますと……曲の意味を解釋するのに、色々意見が違ふといふことがある樣です。あの人はあゝ彈くけれども、作者はその積でない。こう彈かなければならんのだなどゝ申します。學校ですか……みンなそんなでないもんですから、仲々曲の解釋に意見の違ふなんて事は、まだ〳〵ありません。まア……形の方丈でも、しツかり行けば、それで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

精々です。それさへ六ケしいもので……然し教師が矢張り曲の意を形で教へ込む様にしにやいけません。

◉段々うまくさへなつてくれば、別に教へ込まれなくッても曲の意味は、妙に解る様になッて來ます。

◉矢張り精神がないは駄目です。あッちの新聞なんかにも、今日の誰某のは、技術はいゝが、火がなくッていけないなんてい書てあります。むかふでは、精神のないことを火がないと申ます。今日ヴヰーンから參りました新聞にも、そんなことが、しきりに書てありまして、彈く人はその心になつて、曲を作ッた時の作者コムポーザーの感情を聽く人に傳へなけれやならんなんて、やかましく云つて居りましたッけ。……一般の素人の聽衆には……矢張りそんな事が一番眼につくでしようチー。

◉むかふの新聞や何かにも、コンサートの批評なんか出ますが、丸るでこッちの様なものではありません。

◉日本語の唱歌の歌詞には、色々御説がありましやうチー。みなは中村(秋香)さんのが一番歌ひ善いと申して居ります。せんだッての學友會に、極僅か七人ばかりで歌ひましたのは、どうでした。……世間ではどういひますか……私などはよく出來たと思ッて居ますが……あれは生徒(由比久米子)が作ッたんですから、ヤッぱり他人と違ッて呼吸がわかつて……私なぞには、獨逸語が自分の言葉になッて居るものですから、どうせ歌ふなら、その方が歌ひ易いですが……あまり出過るかは知れませんが、そのうち自分でやつて、日本語で歌つて見やうかとも思つて居ます。

◉耳葉の大いのですか……格別よく音を聽きわけることが出來るといふでもありますまい。……さういふことは一向不案內で御座りますが……よく眼が見えて、近眼でも遠眼でもない人だのに……色盲ッていふのが御座いましやう。あれは色がわからんのです。そんなもので、いくらよく聽える耳でも、矢張り音樂の音が、わからん耳があるものと見えます。

◉上野の學校までは、歩きますと、一時間と二分ほどかゝりますよ。

* * * * * *

清談の間、妹の君幸子女史、常に傍に侍り居られた。門を辭

して、去らんとすれば、圖書館よりにても、歸り給へるにや、弟君とも思はるゝ人、入り來られ、一家忽ち春風を吹きそめて、仲々ににぎやかになれり。女史のホームは、餘程和氣藹々たるものらしゝ。

月に對ひて

大塚楠緒子

今宵は十五夜の月とぞ、圓滿なる影中空にかゝりて塵ばかりの雲もなし。をとゝしは是れを葉山の森戸明神より見、去年は鎌倉の七里が濱より仰ぎけるを、ことしは我家新築の余儀なくも此處に借家の窓よりのぞむ、また人の身の轉變をかしからずや。所狹き小庭に獨り延びまされる青桐にさら〳〵と音立ちて吹き入るゝ風、浴後の袖に涼しく、万籟寂として聲なく、群がれる屋根のみ重なりて黑し。小路の彼方に圍者とやらむいはるゝ女の白粉臭き顏も消えて、さすがにしばしは耳傾けられける爪彈きの音もたえぬ。腰屈みし製本所の老婆、襷かけて能く働く探偵の妻、材木屋の娘の十六ばかりなる無邪氣に美しき面さしなど、ひたすらに我眼に殘れるも今はとり〳〵の夢にや伏すらむ。夜はいたう更けぬれど、むし熱うて戶も閉しかぬるに、加へては胸の底かき亂さるゝやうに覺えて、遠き所近きところに想走せて閨の內に入らむともおぼえず、燈吹き消せば月は溢るゝばかりに机の上を照たせり。一躍否一轉否一動否一息にして我胸は將に巖の床の上に永遠に眠るべきをと、はからずも思ひ出すは、けふ讀みしまむふれつどが句、危一髮にして萬事休むべき人の命のさても思へば身の毛もよだつばかりなりかし。死なんとして死なれざるもの、死なんとして死に能ふもの、自殺情死殺人罪など智情意の不平均なる作用に出づるとはいふものから、思ひもよらぬ時に際して、思ひもよらぬ仕出でかすこと、嗚呼人は何のチャームの糸にあやつられてやあるらむ、何處の際まで滿足を求め慾望を充たさむとしては、あせりもだえ苦しむらむ。境涯に安んぜむか、乞食の乞食たるが如くて、何の進步も奮勵もなからむ。滿足せざらむか、汲々として片時もやむときなく、戀々として安心を見出さむとしては、得るは幾何かの苦痛ならむのみ。さる一刹那、世界なく社會なく、道德宗敎の

嘲り何のかへりみるいとまあらむ、忽ちに死といふことを念頭にうかばしめて、さらでも果敢なき朝露の人生にわれみづから一打撃を加へて、夢の如くにうち消すと、あはれ冷笑に過ざるべきとならむや。哲學の深遠、科學の薀奥の究め遂げられし曉、宇宙を通じての動きなき哲理はいつ發見せらるべき。エナルギー以上のもの何處にかある、地球の廻轉の止みなむ日に始めて、われ人最後の解釋はされうべきにか、際限なき宇宙の際限なき空莫のあなたに、それかあらぬか幽かに認むる眞理の光明を追ひつゝ、彼方此方に千條の道をたどり行くさまも、人の身の果敢なさよ。たとへ追懷は數千年の昔に溯り、たとへ想像は數千年の未來に亘るとも、僅に五十年を期せる運命の、果ては地下に五尺の白骨を殘すに過ぎざるにあらずや。顯微鏡下にをどるアミーバも、同じ此世の存在物なるを、生存競爭に勝ち續けて進化し來りたるわれ人の複雜なる機關の作用は、たゞに喜怒哀樂に己が身をさいなむ機能に外ならずして、荻のひと葉のそよぎにも、胸のとゞろきたゞならぬこそ安からね。厭世家あり、樂天家あり、ライブラリーに一生を埋め果つらむも人、荷車ひきて道側に倒れむも人なり。何處に宇宙の實躰をとらへ、何處に人の眞想をしりて安ぜむ。血といひ、涙と呼び、狂熱をふり絞る詩人にくらべなば、禪家の超然主義いとも迂濶らしう、道德を語りて端坐せる人、耶蘇教を說きてくつろげる人、笑ふ人罵しる人、泣く人苦しむ人、總合的の世は飽くまでも總合的なるにや、嗚呼人生は觀じて可なりや、觀ぜずして可なりや。

さばし茫然として月に對へば皎々たる光に面を射られて、續々起り來りし想は消ゆるやうになりぬ。なにものか奇しき力にうたれけんやうに覺えて、たゞひたすらにながめ入程、あはれかき亂れしわが心靜まりて、一物もなくなりぬ。月よ廣大無邊なる汝が德や。翠帳紅閨に照らし入るらむ、其影は賤か伏屋の軒端に惜しまず、太平洋の濤に乘り、ラインの河の瀨に映じ、富士の裙野の露にも宿りて、幾多の人の心にしむらむ。あはれ書は閉ぢなむ、いざや對ひ明かさむ、月よ今宵を。

天津のかひはならまほし　花影子

松茸や都に遠き山の味　惟然

天津つかひにならまほし

花　影　子

牧場にみつるうまごやし
いまを盛りの花の香を
靜におくるゆふ風に
軒端にたるゝ楡の木の
ほづえ下枝もさやぎつゝ
葉越しに落る夕日かげ
やゝに消えゆく門のべに
くれゆく空をながめつゝ
ひとりたゝずむ童あり

あまつみくにの門とさへ
見ゆるばかりに輝きし
空もいつしか色さめて
またゝきそめし星の影
増くる數のいとさはに
かぞふるひまもあらざれば
童はいたくみつかひの
數のおほきにおどろきて
ちひさき胸にをどりをる
思もいつか空にゆき
星のかげのみ眺めつゝ
外に心もなかりけり
母はゆふげに童をば
よべどいらへのあらざれば
いかにせしかといぶかしみ
戸口まぢかくいでくれば
童は門にゐすわりて
御空遙にながめつゝ

おもひ沈みしさまなれば
母はわらべのうしろより
ゆたけき頬にくちづけて
いとしき和子よなにをしも
いましは深くおもふかと
とへば夢よりさめしごと
志ばし母をば見あげしが
靜にかくはこたへけり

母よ天津つかひにならまほし

その夜はらべのいぬるとき
母はわらべと諸共に
ねどこのわきにひざまづき
いとしき和子よ天使と
ならまほしくばおとなしく
母の語をきけよかし
をさなきものを愛でたまふ
救のぬしはをさなごの
罪なきときにみ救ひを
天つみ親に求めつゝ
み膝の下にこよかしと
常にまちても居ませりと
愛をこめたる言の葉に
わらべはいともあいらしく
手をあはしつゝたらちねの
膝にすがりていのりたる
聲さへいだくふるひつゝ
母はなみだに咽びけり
祈をはりてもろともに
きよきみ歌を歌ふまに
わらべの顔はかゞやきて
喜びみちし眼には

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夕にながめしかの星の
母とわらべはその夜半に

垣のうばらの花ちりて
ながきねむりにつきにけり
軒端をすぐる風のおと
名ごりをしげに夕日かげ
おける寐臺にやせはてゝ
母の心やいかならむ
こよひばかりと思ひつゝ
生命のひかりいましばし
願やいかにせつならん

老ばしなりともながめむと
とれぬはつきぬ涙なり
嵐のすゑにふりそめし
死出のつかひのおし音の
母のこゝろはうち亂れ

清き光ぞかゞやきぬ
いかなる夢路をたどりけむ

牧場の花ものこりなく
楡のかれ葉を吹きちらし
よみの使の羽音にも
たえ〴〵のこる窓ちかく
臥す子の顔をながめゐる
わが子の顔をながむるも
今日とともにも消えてゆく
とゞむるすべもあれかしと

かすむ眼をぬぐへども
折しもつよく吹き來る
一村雨のおとさむく
軒端にひゞく心地して
胸はなみだにふさがりて

祈のこゑもきれ〴〵に
母の望をさゝげつゝ
心のうちのくるしみは
なほたへがたくありつらむ
わが子のかほを見つむれば
なかば開きて聲ほそく
この一言を名殘にて

日も西山に入相の
くるればやがて大空に
過にしなつの夕暮を
ひとりながめてたゝずめる
その星のみやしるならむ

此世のなかにふたつなき
神のみむねに打ちまかす
身をやくよりもさくよりも
今ひとたびと目をぬぐひ
はやちからなき眼をば
天津つかひにならまほしと
靈はとこ世にかへりけり

鐘のひゞきも絶へはてゝ
またゝきそめし星のかげ
おもひ出してつく〴〵と
母のこゝろはいかならむ

君がすむやどのこずゑをゆく〳〵も
かくるゝまでにかへりみしはや

海ならすたゞよふ水の底までも
きよき心は月ぞてらさむ

菅　公

虫のかごと

闌たけ

花を契りし　吾が君の
植ゑし其夜に　身亡れば
かけし行末を　せめてもと
墓に移しゝ　白菊よ

君が失せにし　今日なりて、
咲けるかあはれ　優しくも。
栽培ふおのが　心をば、
汝も君への　手向けにと。

契りし人の　世にあらば、
いかにか汝を　愛でつらむ。
汝が笑顔も　君あらば、
一入色の　冴ゆべきに。

植ゑにし君は　汝を見ず。
咲きたる汝は　君を見ず。
見れぬ見られぬ　汝が笑に、
際なきおのが　涙かな。

風に取らせじ　汝が袂、
君が袖もと　契りつる、
言葉の香も　仇櫻、
夜半の嵐に　散り玉ひ。

頼みがたなき　世の態に、
汝もさこそは　辛からめ。
現を夢と　たどりつゝ、
世に住み詫びぬ　我も亦。

君を誘ひし　風吹かば、
み側にはやも　往きなまし。
墓の並ばゞ　いく秋も、
變らぬ笑に　守りなむ。

露と置く吾が　涙こそ、
汝に胸裂く　鮮血なれ。
折らんと人の　苟且に、
寄らば散れかし　此墓に。

香の烟りの　うらさびて、
ゆらめく秋の　夕まぐれ、
空に知られぬ　時雨して、
音をなく虫の　絶え〴〵に。

甘藷料理（二）

●（三十二）射込いも　よく熟したる柚を小口少し切り、中の實を去り、藷を生にて卸し、麵粉少し入れ右の柚の中へつめ蒸して小口切にし、いり酒にてつかふ。柚の代りに饅頭の餡を去りて用ゐるもよろし。

●（三十三）鷄卵割いも　蒸いも馬尾篩漉し、紅にて色付け、白明礬少し入れ交ぜあはせ棒の如くにとり、いもの精（三にあげたり）を水にてとき、稀葛の如く煮て冷し置き、之にていもの精の末を團子の如くに、湿れ一分程に展し、右の紅染の棒のいもを巻きさつと蒸して冷し小口切。

●（三十四）辛板糕いも　蒸藷馬尾篩漉百目、糯米粉五十目、砂糖十匁、唐辛

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

末二分、以上を混れ合せ、箱に入れて蒸しあげ、二日程置、一分程に切りて乾し、焼鍋にて焼き用う。

●（三十五）最中月いも　藷の精を鶏卵割りいもの如くに混れて、打ちのばし、二寸位の圓に切り乾上げ、焙爐にかくるなり。

●（三十六）味噌漬いも　生にて薄く切り味噌一層、紙一層、いも一層と幾層に漬けるなり。

●（三十七）もろみ掛いも　生にて小骰に切り、醨（もろみ）を擂鉢にてよく擂り、いもをかけて出すなり。

●（三十八）水玉いも　生にて湯にむき、むぎごめを其儘に置き畜の如く堅と巻き小口より五厘程の厚さに切り、麻油をよく煮えたゝせて煠るなり。

●（三十九）飴いも　藷精石密末入れ混れて打ちのばし色をつけ、焙爐にかけろ、切りやう好次第。

●（四十）鳥肉贋いも　生にて卸し、蜀黍末を少し交ぜ合せ、竹の皮に五六分程に付けて、片々に切り、少し油にて煠ろ。調味好み次第。

●（四十一）小鳥贋いも　生にて卸し榧實の皮仁ともに碎き交せ、小鳥の肉のたたき程にさりて、麻實二三粒入れ、油にて煠る、調味好次第なり。

●（四十二）取合いも　生にて卸し靑色黄色黑色の三色を取合せ、筥に入れ蒸して小口切にす。紅染を蒸時は白礬少し入れてよし。

●（四十三）黃鶏卵いも　生にて丸むきにし、長一寸五分程にきり蒸て、中をくり抜きて、蒸藷の馬尾篩こしを、紅にて色を付けたるをつめて小口切にす。

●（四十四）衣かけいも　生にて丸むきにして、長一寸五分程にきり蒸して中をくり抜き、蒸藷の馬尾篩漉を、紅にて色を付け、中へ入れ小口切にす。

●（四十五）藷衣　銀杏、栗子、祇園坊柿、慈姑、牛蒡、竹の子を醤油にて味をつけ、いもを生にておろし麵粉少し入れたるを衣にかけて、油にて煠げる。

●（四十六）新衣かけいも　生にて卸し、蒸してよろしく取り。麵粉に靑粉合せ水にてとき、醤油少し入れ衣に用ゐて前のものを油に揚げるなり。

●（四十七）シュブンいも　藷精を絹篩にてふるひ、糊の如くに煮固め、小さく丸く摘み取りて、吸物にも菓子にも好次第に用う。

（つゞく）

時文

◎兒童研究　久津見息忠著　三育舍版

今日歐米の教育界に、兒童研究の頗ろ盛んなるよしは、本誌の屢其消息を傳へたるが如し。我邦にも元良博士はじめ此研究に熱心なるもの尠からず、また諸種の議論を聞くと雖も。其研究に關しての著書あると、久津見蕨村氏が此新著を以て初めとす。書は兒童研究の本旨、兒童研究の興味、兒童研究の方面、教育と兒童研究、心理槪論、兒童發達の心理的理法、兒童發達の時期、兒童研究の方式、兒童研究の結果などを、最近の兒童學によりて論述せり。兒童教育に任ずるものゝ須らく一讀すべきの書なり。且意へらく、女學校等の普通教育の短年限にて、心理初步と教育學並に小兒學とを合せ教授すべき場合に、此書を教科書とし、或は參考書として用ゐんは、普通に心理學または教育學てふ空漠たるものを授くるに優るの利ありと。

◎女子書簡文　下田歌子著　博文館版

下田歌子女史博文館よりして、『家庭文庫』を出版するの擧ありて、今や其第一編『女子書簡文』出づ。女子消息文例の出版、此頃頗る多きとなるが、これはまた、文藻に富み、見識に秀でたるとの世のゆるしある女史の編纂なれば、一ふし二ふしの他に優れたる見處ありて、殊に短册、色紙の書き方、または手紙封し書などをいとあざやかに示されたるは、いとたよりよろしく、且は卷頭の書風を示したる、臨本としてよし。製本の佳好なる婦女机上の友たるに適す。

◎女子の職業　　福良虎雄著　　普及舍發行

昨年中報知新聞に連載せられて、其都度本誌にて梗概を摘記したる女子の職業は、此度普及舍の新撰百種の第三編として發兌せられたり。其調査の精密にして、有益なるとは、既に世に好評ある故、今また之に贅せず。

◎兒童教育論　　菅絲蔭著　　文遊堂版

ルッサウのエミールは近世教育改善進歩の最大原因をなすものなり、この一篇の小說はペセドゥを起し、また偉大なるペスタロチーを起したるを以てして、如何に大勢力ありしかを知るに足る。米國のスチー氏此寓意小說の要點を拔萃して英譯せるもの、教育古典の一として廣く世に行はる。菅氏は其英譯を更に抄譯す。之を此兒童教育論となす。

◎與謝蕪村　　大野洒竹著　　博文館版

謝蕪村は蕉翁以後俳壇に在りて、斯道中興の豪傑なり。今日俳諧の盛んなるに當りて、所謂新派の俳人等は、特に此人の風骨を慕ふて、之を祖述すと聞く。而して大野洒竹氏は實に此俳壇の豪傑を當今に鼓吹したるの第一人なりとか。されば爰に新著○『與謝蕪村』あるが如きは、蓋し氏を待ちて初めて見るべきの事なり○世に芭蕉を傳するものは多し、然れどもこの蕪村を傳するもの殆ど之を見ず。洒竹氏の此著の如きも、據ろべき載籍記錄なきが中に、斷簡零墨に徹して、考證また揣摩、蕪村傳記述の難關を破して、隱約の間に其生涯の足跡を認識せしむ。又其俳諧の批評に入りては、洒竹氏一家の俳論を聞くべし。蕪村の生涯と面目を詳にせんとするもの、先づ此書より入るべし。蓋し此著述の如き、實に當今の俳壇を賑はすべきの好著なりといふべし。

◎新小說第二年第十一號　　春陽堂版

『破三昧線』根本吐芳の作なり。藝妓手管の失敗談なり、人情本の文脉を摸し來りて、通篇讀むべし。

『栗實』鹽井雨江の作、つゞまり、和文家の筆、小說としては、推しがきかず。趣向も平凡なり。

『貧乏』露伴氏の新作、貧家の一景叙し得て妙、貧苦の中に至情の掬すべきあるあたり、實に此人の筆ならでは、誰か亦、之をよくせん。

『大森彦七』櫻痴居士の新作脚本にして、明治座十月狂言の中幕に團州の演ずる處なり。今や脚本作を企つるもの多しと雖も、よく今日の劇に上せて見るを得べきもの、櫻痴に外亦ありやなしや。此筋書に於てなほ大森彦七を活演する團洲の妙技を見るが如し。

◎新著月刊第七卷　　東華堂版

『明闇』は五十嵐巴手が初陣の作なるべし、不孝の子の無情、貞婦の芳志、寡婦の苦心、やゝ描き得たりといふべし。

『鬼瓦』は加藤審雨が飜譯『取かへ心中』は伊原青々園のコメデーなり、俄狂言に上すべし。『かげろふ』は後藤宙外の作、一失戀談なり、通じていへば、此頃の新著月刊中にて此卷はやゝ見ばへあるものなり。卷頭の揷畫、先度の悪評に懲りてや、裸躰畫を見合せたるはよろし。卷末の『千歳米坡』が經歷談、なま中の小說よりば面白し。

◎女界文壇雜俎　　十月上中期

◎男女の關係(谷本富)　　女子の友第八號
◎女子の躰育につきて(加藤之満)　　女鑑第百四十二號
◎小兒の衛生　　家庭雜誌第百九號
◎小學校女生徒に家事經濟を敎ふる事(大村仁太郎)　　教育公報第二百一號
◎實際の女權擴張　　婦人雜誌第百十七號
◎蓄妾(學童百話)　　教育時論第四百四十九號
◎小學女子教員養成に就きて　　教育報知第五百六十四號
◎女尊男卑の背理(學童百話)　　教育時論第四百五十號
◎女子に適任の職業　　助産の栞第十七號
◎中野糸子の苦節　　東京新聞連載

髯風を吹いて暮秋嘆ずるは誰が子ぞ

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

片　々

◎福翁　文明の家庭を論じて曰く、父嚴母慈の家庭はむかしくの事として、今は則ち家の內に、長幼前後の別はあるも、他人行儀に尊卑の階級は無益なり。老人は家友中の長者にして、年少き子女は新參の親友なり、共に語り、共に笑ひ、共に勸め、共に遊び、苦樂貧富を共にして文明の天地に悠々たるべしと。

◎蓄妾を是とするものあり　教育界に一かどの勢力ありて日本主義主張者の一人なる湯本武比古氏は我國躰なれば、强ち蓄妾は不可ならず、系統を重んるずの國風は、自然蓄妾の必要を見ると。嗚呼これ日本の國躰を無上に崇拜して、理を曲げて、非を辨護せんとするもの、日本主義とは、如斯くに道德の大本を無視するものゝ謂か。曲學阿世なると如斯くにして、なほ教育家を自稱す。これ實に教育家の耻辱なり。然るになほ此人に許すに、地位を以てす嘆すべき哉。

◎太陽　の高山氏また女子大學に反對す。これ日本主義の竹內某の說と同じきもの。詮ずるにこれ外國の女子高等教育反對說、しかも陳腐なる議論を直譯せるに過ぎず。女子に許すに男子同等の教育を以てするを否むは、さても俠氣なさの至りなり。

◎女子　また自主の權を賦與せらる、男子の此權を制して、之に教育を授くべし、また授くべからずなどゝさも女子は男子の支配下に在るものゝやうに見做すは、これ天理を賊するものなり。女子をして、自ら其取らんとする處のものを取しむべく、而して先進の男子に之を輔導すべきの責任あり。

◎教育報知　說をなして曰く、小學校女教員を養成せんが爲めに、師範學校女子部を設くるは、經費多くして、功尠し。故に中央部に對しては、高等女子師範學校の擴張を望み、地方に對しては、高等女學校の設立を希ひ、一は女子に須要なる學科を授け、また一は小學教員たる資格を得るをあらしむべし。これ目下の急務ならずやと。

◎同雜誌　また女子就學の年限に關して、疑問を發して曰く、女子の就學年限を男子と同一にするは、我國の持說に背く所なき乎。女子の學科程度を男子と同一にするは彼我心身上の關係を明かにせざる無き乎。今日の程度は我國女子必要の課目を忽にする所なき乎と。

時　報

◎大日本女學會講修終了式　通信講義によりて高等女學校の科程を教授せる同會に於ては、當月を以て創立滿二ヶ年を經過し、第一回講修期を終了したるに付、來る十七日副總裁鍋島侯爵夫人邸に於て總裁小松宮妃殿下の御臨場を仰ぎ、贊成員講師一同を招待して盛んなる講修終了式を擧行せり尙同會は來る十一月より新たに第二回講義錄を發行すと云ふ。

◎大日本婦人義勇會規則修正　松本愛子氏の首唱にかゝる大日本婦人義勇會は、兼て會員より一錢つゝの講金を募集して軍艦製造を主旨とせしが、今回都合により、其方針を變へ、單に軍事的義務を國家に盡すの精神を以てするといふに改めたり。其規則は左の如し。なほ同會は近日總會を開きて、會員一同協議の上、其事業及運動の方法を確定する由。假事務所は之を京橋區金六町四番地金陽館內に置く。

◎大日本婦人義勇會規則

第一條　本會を稱して大日本婦人義勇會と名け本部を東京に置き支部を便宜各地方に設く

第二條　軍事的義務を國家に盡すの精神を以て平素節約の實を擧げ每月拾錢の會費を以て隨時適宜の方法に依り普く日本婦人の尙武的義氣を養成し其餘を積立金となし有事の用に充つる事

第三條　本會は有志の日本婦人に廣く入會を許しこれを證する爲會員證を交附す
　但男子にして本會の主旨を贊成せらるゝ者を贊成員とす

第四條　本會々員を分ちて左の五種とす
　名譽會員　朝野知名の婦人を以てこれに充て間接直接に本會に効勞ありたる者を優待す
　終身會員　本會の主意を贊成せられ每月金壹圓以上出金せられ引續き三ヶ年以上會員たる者を以て之に充つ
　特別會員每月金貳拾錢以上を出金する者を以てこれに充つ
　普通會員每月金拾錢を出金せる者を以てこれに充つ
　會友　一時金圓又は物品を寄せらるゝものを以てこれに充て永く本會の記錄に止む

第五條　本會は左の役員を置き會務を處理す
　會　長　　一　人
　副會長　　一　人

會計　一人
評議員　廿人
幹事　二人

第六條　會員會友より出金の金圓は本會の實費を除き其他は總て確實なる銀行に預け置き物品は役員協議の上これを處理す

第七條　本會々務の成蹟及金圓出納に關する大要はこれを三ヶ月毎に會員に報告するものとす

第八條　本會は毎年一回總會を開き諸般の報告及會務を協議し會員相互の親睦を圖る事　但緊急の場合には臨時會を開くことあるへし

◎日本婦人クロンダイク金坑に向はんとす　アラスカ州クロンダイク金坑の好況は、米國男女の人心を激勵しつゝあるが爲、遂には在米日本婦人高橋某なるものも、亦不日米國を發して、發坑者の仲間入りをなして、クロンダイクに向はんとする由。

◎女子高等師範學校保姆練習科第一回卒業生　十月四日擧行したる同科の卒業式に於て卒業證書を授與せられたるものは、總數十三名、即ち稻石泰（岡山）八田さだ（兵庫）和田くら（東京）神田とよ（山口）坪内きく（徳島）長洲餘野（大阪）井上みき（東京）野崎ひで（福岡）山口まさ（徳島）前田りゑ（香川）藤澤皐月（長野）小林雪（東京）篠原直（石川）なり。

◎子守學校　宇都宮尋常小學西校長渡邊鎌吉氏は部下の教員及び有志者と謀り、本年春期より、校内に、市中の子守を集めて教育を施したるに三十餘名の申込者あり、成績も至つて佳良なるより、なほ奮つて之を擴張する方針を執れる由。

◎信州上田女學校の裁縫專修科　仝校にては九月一日より該科を設置し高等小學卒業若くは之と同等以上の科程を修めたる者を入學せしめ教授するよし。受持教員は仙臺なる朴澤流裁縫科を卒業せし西方さだ子なる由。

◎金貨千弗の寄附　岡山孤兒院新報に曰く、去る七月二十一日米國ニユーヨーク市ビリングス令孃よりペテー師の許まで金貨千弗（我が二千圓程）を寄附す可旨申越されたりし本日は丁度三十年前半年の决算をなし不足金即ち負債金九百四拾五圓三拾壹錢九厘なるを見し余は殆ど當惑し種々苦心の末「願くは主よ無一物なる此僕を憐み玉へ」との祈りを捧げてひたすら其御惠みを待ちし折なりければ言ふに言はれぬ喜びを感じ「ワが神エホバ」は活き玉へり」天は必らず自ら助くるものを助け玉ふ天の父は必らず吾等の必要物を玉へり」と直覺せり常に本院に同情を表し本院の爲めに祈り玉ふ兄弟姉妹願くば吾等が半年間に於て負ひし重荷をかくしてとり去り玉ふ主に一片の感謝を捧げ玉はんことを。

◎岡山孤兒院　の年少院兒六十名は日向國高鍋に移住を企て百二十石積の和船一艘に乘じて先日同地に赴きたり。右は同地にて機織散髮精米其他の事業に從事する爲にして、精米場には同地精糖會社跡を六百圓にて購入したり。なほ米麥其他の食品は一切岡山本院より輸送するよし。

◎郵便切手の貯金法　遞信省に於て明年度より切手貯金の方法を實施する計畫なる由なるが、その方法は別に切手を新調せず、郵便切手を以て之に代用し、即ち各自に於て郵便切手を貯へ、其十錢に滿ちたる時貯金取扱所に出して消印の上貯金帳に記入を請はしむる仕組となす筈なりと云ふ。

◎殊勝の心掛　伊豫國宇和島高等小學校の裁縫教師某は、糸屑の教室に散りたるものを拾ひて、本年の夏休中に之を二丈八尺の美麗なる反物に織り上げたりといふ。

◎孝貞の夫婦　富山縣中新川郡西加積村の江野本庄吉及同人妻サトの兩人は美名四隣に高き孝子、貞婦なるを以て、事官に聞え、此程同縣知事より左の通の賞狀を受けたり。夫婦共に門閭に施表せらるゝは、蓋し近代の美事に非らずや。

富山縣中新川郡西加積村大字
江尻村宗右衛門養長男
江野本庄吉

資性篤實養父に事へて至孝一家能く親睦せり養父曾て風毒病に罹り全身不隨となり起臥飲食湯浴厠圊に至るまで人に賴らざれば辨ずること能はず庄吉深く之を憫み妻サトと共に勞苦を忘れ晝夜看護に意を加へ藥餌其他嗜好する所の物は必ず之を供して毫も不自由を感ぜしめず養父性短慮にして屢々怒ることあるも懇切に之を慰め其命に違背せず益々孝養を勵み又た能く農事に勤勞し勤儉を守り其志行を渝へざること二十有四年一日の如し郷閭擧て其の至孝を稱す洵に奇特とす仍て爲其賞木杯壹組下賜候事

富山縣中新川郡西加積村大字
江尻村江野本庄吉妻
上野サト

資性溫順舅に事へて孝夫に事へて貞一家能く親睦せり舅曾て風毒病に罹り全身不隨となり起臥飲食湯浴厠圊に至るまで人に賴らざれば辨ずること能はずサト深く之を悲み夫庄吉と共に勞苦を忘れ晝夜看護に意を加へ藥餌其他嗜好の物は

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

必らず之を供して毫も不自由を感ぜしめず男性短慮にして屢々怒ることあるも懇切に之を慰め其命に違背せず益々孝養を勵み又た能く農事に勤勞し勤儉を守り其志行を渝へざることこ二十有四年一日の如し郷閭擧て其孝貞を稱す洵に奇特さす仍て爲其賞金拾圓下賜候事

◎三世孝を以て聞ゆ　福島縣安達郡杉田村に三五郎さて有名なる孝子あり、今茲に三十四歳夫婦共に盲目の父彌右衛門に奉ずると頗る厚く、人皆感稱す而して此家は當代三五郎のみならず、其父及び祖父も亦至孝を以て知られたり。祖父は勘太郎といふ、十九の時父甚右衛門六十八歳にして中風に罹り、次で母も亦同症にて殊に甚し、糊養到らざるなく、孝養を欲して妻を娶らず、領主丹羽氏米二俵を賜ふて之を賞せり。文化十年三月父甚右衛門九十九にて死し、母も次で長逝せり。勘太郎の悲嘆譬ふるに物なく、宛も生に事ふるが如し。天保年間勘太郎甚助さ改名し、又丹羽氏より金三分を賜はる。甚助父母逝て後三十一歳にして始めて妻を娶り、一女を擧ぐ、隣村彌右衛門を女婿さす。彌右衛門舅姑に事ふると頗る厚く、甚助老いて寒中に臥すや、其足を吾懷に入れて以て溫め安眠せしむ、安政六年三月甚助七十八歳にして鬼籍に入る、彌右衛門、後盲せり、又一男あり即ち現時の三五郎なりさぞ。

◎種痘に關する訓令　十月四日内務大臣より秋季種痘に關し、警視廳北海道廳各府縣へ左の訓令を發したり。

從來各地方に於ける種痘施行の狀況を觀るに多くは春季を主として秋季種痘は或は全く施行せざる町村も少なからず蓋し秋季は農家收藏の時なるを以て勢ひ此實行を馴致したるものなるべしさ雖も痘瘡の流行は之を既往の實歷に徵するに概ね十一、十二月の交より翌年四五月に渉るを常さするを以て今若し秋季種痘にして普及せざらん乎春季種痘後出生の兒童は多くは未た種痘を了へずして流行期を迎ふるものにして甚だ危險の至に付自今市街地に於ては主として秋季に於て種痘し其他村落に於ても可成秋季種痘の一層行屆候樣措置すべし

◎海外女界

◎英國女皇の子孫　英國女皇は御長壽にていいます程に御子孫に數々おはし、皇子九人、内七人御生存、皇孫四十人、内三十三人御生存、皇太孫三十一人、悉皆御生存、而して將來歐洲に帝王たるべく、又は現に帝王たる御方にして、英女皇の御子孫なるは、露國、希臘、ルーマニア、及英國の五國なり。

◎エドウイン、アーノルド日本婦人さ婚す　英國の一詩人さして、先年我國にも來遊し、大の日本好にも日本特に日本婦人を世界に紹介し、袈裟御前さ題してドラマの作もあり、日本に盡くす功勞勘らずさて勳三等にまで叙せられたるエドウイン、アーノルド氏は、先頃英國仕立の日本婦人に結婚したりさいふ。因にいふ同人は品行に於ては隨分非難せらるゝ方なり。

◎レチ、デリーブ夫人　さいへる有名なる佛國の作曲家の未亡人なるが、此程巴黎府附近に一貧民學校を起したり。

◎米國シンシナッチ　の一少女ジエニー、ウエルサイマアは、銀行手形用の贋造すべからざる紙を發明せしが、ニューヨーク府の一銀行は之の發明を二万五千弗にて購求せり。

◎クラ、、バートン孃　米國赤十字社々長兼會計なるクラ、、バートン孃は九月二十日墺太利府維納にて開會せられたる万國赤十字同盟總會に出席したり。

◎市參事員は悉く婦人　米國ニュージエルシー州リンコルン市の市參事會は悉く婦人を以て組織せらるゝものにして、米國にても他にかゝる例はなし。

◎ルシー、リッツル孃　さいへるは米國メンフヒスの黑人なるが年齡二十三才にして、今やテンチシー代言組合會に仲間入をなしたり。

◎米國最年少の女子代言人　はインデアナ州、ラポートのモリー、ロリック孃さいへるものにして、當年二十歲。

◎ニュー、オルレアン市　のリチヤード、ミリケン夫人は、同市の慈善院に七万五千弗を寄附して、幼稚園其他を有せる小兒部の設置費に供したり。

◎昨年中　米國北長老教會の婦人が、外國傳道に出金したる高は三万弗に上れりさいふ。

◎世界婦人矯風會第四大會　は十月廿二日より加奈多トロント市に於て開會せらる。同會の演說者の重なるものは、會頭ウイラード、女史副會頭ソモルセット夫人、濠州ニューソースウエルス矯風會代表者ウインデキー夫人、同上ウイクトリア矯風會代表者キルク夫人、埃及カイロ矯風會代表者フランク、ギッフイン夫人智利矯風會代表者マリオン、ミルクス孃、濠州タスマニア矯風會代表者子オルダック夫人、英國矯風會副會頭シヤエン夫人等なりさいふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

各地女風俗調査項目

一　男女交際の有樣（未婚の子女の交際に關する世間の制裁は嚴なるか寬なる乎。男尊女卑か否や等）

二　家庭に於ける女兒の狀態（家風庭訓の及ぼす教育上の特色ありや。女兒の遊戲、玩具、手傳等に於て特に目立つものありや等）

三　主婦の義務、勢力、財產等に於ける特別の狀態

四　下女の風習、其雇入の方法規約、彼等が風儀、及び下女に對する家族の態度

五　女子嗜好の傾向（茶、花、琴　歌、又は義太夫、芝居、小說、常盤津、清元、三味、踊、賭博、弄花等、其他の遊戲）

六　婦女子勞働の狀態（勞働の時間。一日の平均賃錢。幼女の勞働者ありや、一般婦女子の勞働增加せるや。工女の風儀。婦女の從事する職業の種類。婦女の勞働過度なることなき乎。男子の勞働に比較して輕重如何。婦女が職業を撰擇する自由の有無。婦女勞働者は生計を支へ得るの賃錢を得る乎等其他）

七　婦人慈善事業の有無、組織、景況、及び勢力

八　婦人會の有無、組織、景況、及び勢力（女同士の談話交際遊戲、又は觀音講の類を含む

九　婦女子の教育に關する一般世間の意向、女學校の景況、學齡女兒就學の割合等

十　女學生の風紀、修學者の增減、其志望の傾向等（女學生の主婦たる家庭、其歸鄉後の實蹟等を含む）

十一　婚姻、離婚の方法、及び再婚に對する世間の思惑（早婚の弊なき乎、夫婦年齡の懸隔甚しき者なき乎、初婚大凡の年齡、婚姻の儀式簡略ならざる乎等）

十二　女子の風俗（年齡に準ずる頭髮の結び風、帶の締び方、涅齒眉剃は何程まで衰へし乎。茶屋女、私生兒、密賣者の增加、婦人の飲酒喫烟。こゝに交通、教育、興業等によりて影響されし近年女風の變化等）

十三　殊に目立ちたる女の服裝、はき物、手廻道具等

十四　宗教上に於る婦女子の信仰、事業、勢力（女子の特に歸依信仰する神佛の名稱、願かけ、願文、お籠參り、及び寺院祭禮等に於ける女子の風儀等を含む）

十五　尼、巫女　妾等さなる婦人（土地の婦女多き乎他所のもの多きか、貧窮の爲か風習の爲か、又は醜業者より轉するもの多きか等）

十六　女子の音樂に關する特別の氣付き

十七　女先生、女先覺、又は婦女の有力者にして、其地方の婦女子を感化するもの並に其姓名小傳

十八　婦女子に關する有名の古跡、口碑、並に其小史

十九　婦女子他國への出稼の有無、增減、行先（何地方に多く行くやの事）及歸宅後の狀態

二十　密賣者及び藝娼妓の稱呼並に是等に對する憎惡の輕重（醜業に對する勸誘の嫌ひあらざる乎、醜業者に對する特別の締の有無等を含む）

◎寄答者への注意

一　紙上に匿名の記載を要せらるゝ仁は別に本名及び住所を添られたし

一　寄答の原稿を女學雜誌女學欄に掲載したる時は、寄答者に該號の雜誌三部を進呈す

東京麹町區下六番町六番地

女學雜誌社

編輯局

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自由黨々報 第百四十二號

- 黨論　外國貿易の大勢
- 論説　臺灣政況報告（上）……鈴木充美
- 雜錄　第八聲……蓮池凡兒
- 間日月
- 經濟消息

毎月二回發行
一部金六錢一年金一圓二十錢郵劵代用一割增
廣告料一行十錢

世界◎黨報◎時事◎新刊紹介◎時事日記

發行所　東京芝公園五號地二番　自由黨々報局

佛國ルウサウ元著　菅綠蔭譯

兒童教育論

一冊　定價三十錢

右は敎育上の寶典たるルウサウのエミールを抄譯せしもの學校及家庭を主理するもの一讀せざるべからず。

發行所　東京市麻布區箪笥町三十四番地　文遊堂

發賣元　東京市表神保町　東京堂

●切抜通信の要旨

●切抜通信をなすべき概目は農工業商政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歷史詩歌運輸交通土木建築鑛業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の件は小說廣告に至るまで其委托に應し精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

東京市京橋區釆女町廿一番地東京通信社附屬

新聞切抜通信部

●切抜手數料大要

●一己身上に止まる通信は一ヶ月金貳拾錢とす●一事業又は一時物に止まる通信は壹ヶ月金參拾錢より金五拾錢まで●一會社又は一團躰は全般に關する通信は壹ヶ月金五拾錢より金壹圓まで●前記の事項と雖とも關係の範圍廣く日々記事の多數なるものは臨機の契約を爲すことあるべし●月數に拘らず件數にて委托せらるものは東京は十件に付金貳拾錢地方は郵稅を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せず●本社切抜通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すべし

進歩黨々報

第拾二號（十月十五日發行）◎定價一冊七錢〇六冊（三ヶ月分）前金四十錢〇十二冊（六ヶ月分）前金七十八錢〇廿四冊（一ヶ年分）前金壹圓五十錢◎不要郵稅

【論説】行政整理委員會の新元素（市島謙吉）盲從論（山田一郎）余の所信（波多野傳三郎）政務資料仲裁の効力に干する資料◎營業稅法改正【寄書】政友と政敵（西村天囚）星公使に與ふ（梅田又次郎）【評論】【雜錄】【外報】【經濟事情】【黨報】【時事】例に依て例の如し

發行所　東京麴町區内幸町一丁目三番地　進歩黨々報局

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校圖書寄贈報告

第七回

一經濟通論　著者　持地六三郎殿

一家庭要訓　出版元　同文館殿

一ドワート詩集◎英譯フツーイエ氏貴族社會の結婚◎バァーンス社編佛國小史◎英文英國史要◎堀河院次郎百首◎職原抄支流◎大嘗會便蒙◎三光院殿禮節◎弘安禮節◎丹鶴叢書上下◎源氏物語男女裝束抄◎澪のやあき夜◎紅葉の賀◎令義解◎藤堂凌雲書帖◎著書歌の栞◎同この花　各一部　著者　佐々木信綱殿

同　雪子殿

一中等國文　著者　小中村義象殿

一歌舞音樂史　長井行殿

一京都　著者　松山高吉殿

一實驗化學教科書　著者　大幸勇吉殿

一開國始末◎大日本農史　各一部　失名氏殿

一内村鑑三氏地理學考　x y 氏殿

一鑛物學教科書◎新式鑛物學◎中等國文◎東洋分國史◎實業用器書◎幾何學初步教科書◎理化示教◎初等代數教科書◎算術教科書◎日本地理　各一部　出版元　内田芳兵衞殿

毎月曜日發行

家庭新聞

一部金武錢十部前金十九錢二十部前金三十七錢郵税一部五厘宛爲替拂込は銀座爲替取扱所宛郵劵代用一割增

方今新聞の種類少からずと雖も多くは高尚に流れずんば野卑に陷り、甚だしきは醜聲を傳へ淫事を報ずるを以て任となし其兒女を蠱毒し家庭を混濁すること少からず本紙は此の通弊を矯め善良なる**家庭の好伴侶**たらんことを期し努めて**孝子節婦**の美譚を掲げ純潔にして趣味ある**小說**親切なる**家政育兒の心得**さては日々臺所の料理法、小兒の御伽噺、流行品の狀况、衞生の注意茶道生花裁縫の指南一切の禮式等に至るまで凡そ**家庭に必要**なる諸科の事項は一切網羅して洩すなくいと平易なる文字を以てこれを記述し總傍假名に挿畫を加へて何人にも讀み易からしめ外に當今大家の家庭に關する意見を載せ**教訓と娛樂**とを併せ得せしめむとす江湖家庭改良に志ある諸君本紙の主義を賛し之を購讀せしめ興に一國富强の本に盡されんことを祈る

京橋區加賀町十四番地

家庭新聞社

東京裁縫女學校長渡邊辰五郎著

裁縫教授書

全參册

定價金壹圓

取次販賣　東京麴町下六番町　女學雜誌社

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY